



ディプロマ・ポリシー

| 理学療法学科 | 保健医療学部 |
|--|--|
| <p>高い倫理観</p> <p>②医療における理学療法の役割、とくにその倫理的側面を理解し行動できる。</p> <p>豊かな人間性</p> <p>①幅広い教養と生命の尊重を基盤とした豊かな人間性を身につける。</p> <p>高い倫理観/豊かな人間性</p> <p>③全人的医療、患者さん中心の医療を原点に、患者さんを思いやり、病める人の視点で考える態度をもち、個性性を重視した理学療法を行うことができる。</p> | <p>①人間の生命に対する深い愛情と畏敬の念を基盤として、高い倫理観と豊かな人間性を涵養すること。</p> |
| <p>国際水準の知識と技術</p> <p>⑤多様な臨床現場で実践可能な基本的な理学療法技術を身につける。</p> <p>問題解決能力と探究心</p> <p>④患者さんの身体的、心理的問題を解決するために、医学的知識を活用し、科学的根拠をもった適切な判断ができる。</p> <p>⑦理学療法の実践の中から理学療法研究の課題を発見し、それを発展させることができる。</p> <p>内省(自らの能力の限界を知る)/生涯学習</p> <p>⑩常に自らの能力を点検・評価し、生涯学びつづける姿勢を身につける。</p> | <p>②保健医療に関する国際水準の知識と技術の修得を基本とし、未知の課題を自ら解決する意欲と探求心をもつとともに、自らの能力の限界を知り、生涯にわたり自己の資質の向上に努めること。</p> |
| <p>協調性と協力</p> <p>⑥チーム医療の中で調整・連携の役割をはたすための適切なコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>医療安全</p> <p>⑧医療安全管理の重要性を理解し、状況に応じた適切な行動をとることができる。</p> <p>地域医療への貢献</p> <p>⑨保健・福祉・医療チームの一員として地域医療に積極的に関わることができる。</p> | <p>③協調性に富んだ社会人として様々な職種の人々と協力し、医療の安全につねに留意するとともに、社会的視点に立って地域の保健医療に積極的に関わることができること。</p> |

【令和7年度 理学療法学科2年次 時間割表】

<前期>

* : 選択科目

| 時限 | 月曜日 [川角] | 火曜日 [川角] | 水曜日 [川角] | 木曜日 [川角] | 金曜日 [日高] | 土曜日 |
|--------------------------|-------------------|------------------|------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-----|
| 1 9:00 ~ 10:30 | | | | 精神疾患 (松岡) | | |
| 2 10:40 ~ 12:10 | 保健医療福祉学 (森田) | 骨・関節疾患総論 (宮島) | 医療の基本 I (池田) | ヒトの病気 I (茅野) ヒトの病気 II (茅野) | ヒトの病気 III (茅野) 工3・理2 合同 | |
| 3 13:10 ~ 14:40 | 理学療法評価学 I (森田) | 運動学演習 (赤坂) | ヒトの病気 I (茅野) | 人体の構造と機能実習(構造系) (時田) | 人体の構造と機能実習(機能系) (藤原) | |
| 4 14:50 ~ 16:20 | | | ヒトの病気 II (茅野) | | 人体の構造と機能実習(機能系) (藤原) | |
| 5 16:30 ~ 18:00 | | | 精神疾患 (松岡) | | 人体の構造と機能実習(機能系) (藤原) | |

・ 検査・測定臨床実習(國澤)

<後期>

| 時限 | 月曜日 [川角] | 火曜日 [川角] | 水曜日 [川角/毛呂] | 木曜日 [川角/毛呂] | 金曜日 [日高] | 土曜日 |
|--------------------------|------------------|--------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------------|-------------------|
| 1 9:00 ~ 10:30 | | 生活環境学 (三浦) | | | | |
| 2 10:40 ~ 12:10 | | 骨・関節疾患各論 (宮島) | ヒトの病気 IV (茅野) | | ヒトの病気 VI (茅野) 工2・理2 合同 | |
| 3 13:10 ~ 14:40 | 物理療法学演習 (大久保) | 理学療法評価学 II (新井) | 日常生活活動学演習 (金井) | 日常生活活動学演習 (金井) | ヒトの病気 V (茅野) | |
| 4 14:50 ~ 16:20 | | | 人体の構造と機能実習(構造系) (時田) | 人体の構造と機能実習(構造系) (時田) | | 臨床心理学演習 (庄野) |
| 5 16:30 ~ 18:00 | | | | | 日常生活活動学演習 (金井) | 日常生活活動学演習 (金井) |

※日程の詳細は、シラバスにて確認すること。

目 次

科目名(科目責任者)

<専門基礎分野>

—人体の構造と機能及び心身の発達—

| | |
|-------------------------------|----|
| 人体の構造と機能実習(構造系)(時田 幸之輔) | 9 |
| 人体の構造と機能実習(機能系)(藤原 智徳) | 18 |
| 運動学演習(赤坂 清和) | 27 |

—疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進—

| | |
|---------------------------------|----|
| 病理・微生物学演習(佐藤 正夫) | 33 |
| ヒトの病気Ⅰ・Ⅱ(茅野 秀一) | 37 |
| ヒトの病気Ⅲ(茅野 秀一) | 45 |
| ヒトの病気Ⅳ(茅野 秀一) | 49 |
| ヒトの病気Ⅴ(茅野 秀一) | 53 |
| 骨・関節疾患総論(宮島 剛) | 57 |
| 骨・関節疾患各論(宮島 剛) | 61 |
| ヒトの病気Ⅵ(茅野 秀一) | 64 |
| 精神疾患(松岡 孝裕) | 68 |
| 医療の基本Ⅰ(医の倫理、診療の基本)(池田 将樹) | 72 |
| 臨床心理学演習(庄野 伸幸) | 76 |

—保健医療福祉とリハビリテーションの理念—

| | |
|----------------------|----|
| 保健医療福祉学(森田 泰裕) | 80 |
|----------------------|----|

<専門分野>

—理学療法評価学—

| | |
|-----------------------|----|
| 理学療法評価学Ⅰ(森田 泰裕) | 84 |
| 理学療法評価学Ⅱ(新井 智之) | 90 |

—理学療法治療学—

| | |
|------------------------|-----|
| 物理療法学演習(大久保 雄) | 96 |
| 日常生活活動学演習(金井 欣秀) | 102 |

—地域理学療法学—

| | |
|--------------------|-----|
| 生活環境学(三浦 佳代) | 107 |
|--------------------|-----|

—臨床実習—

| | |
|------------------------|-----|
| 検査・測定臨床実習(國澤 洋介) | 111 |
|------------------------|-----|

| | | | |
|--------|-------------------------|------|-------|
| 講義名 | 人体の構造と機能実習（構造系） | | |
| (副題) | 専門基礎分野（人体の構造と機能及び心身の発達） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 90.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/90時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年通年 | | |

| | | |
|-------|----------|----------|
| 担当教員 | | |
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 時田 幸之輔 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 時田幸之輔・山岸 敏之・小野 公嗣・姉帯 沙織・高野 和敬・栗崎 知浩・青地 英和 |
| 科目の目標 | <p>中枢神経系解剖学実習、組織学実習および人体解剖学実習を行う。実物の観察、記録、考察をととして人体の形態と構造についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>中枢神経系解剖学実習においては中枢神経系の形態・構造を理解し、理学療法士になるための基礎知識を習得する。</p> <p>組織学実習においては組織標本を顕微鏡を用いて観察する。各器官の組織学的構造を観察所見にもとづいて理解し、さらに各器官の機能や肉眼レベルでの形態をその背後にある組織、細胞レベルでの形態や機能と結びつけて理解できることをめざす。</p> <p>人体解剖学実習においては人体の形態および構造を理解し、理学療法士になるための基礎知識を習得する。百聞は一見に如かず、という。しかし、心ここに在らざれば見れども見えずとも。実り多い実習を期待する。(実習にて学習する。グループワークにて行う。課題についてはフィードバックを行う。)</p> |
| 学習の具体的な目標 | <p>中枢神経系解剖学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中枢神経系の被膜及び周囲の骨構造について説明できる。 2) 脳神経の構成と脳を出入りする位置及びその後の走行経路を説明できる。 3) 脊髄神経系の構成と脊髄及び脊柱管を出入りする周辺の構造と走行経路を説明できる。 4) 中枢神経系の区分とそれぞれの特徴を説明できる。 5) 中枢神経系に分布する動脈とその環流域の関係について説明できる。 6) プタ胎仔標本を用いて中枢神経系を剖出し、また各脳神経及び脊髄神経を同定できる。 <p>組織学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 顕微鏡を用いて組織標本を観察できる。 2) 組織を構成する単位的要素（細胞、細胞外物質等）を識別できる。 3) 単位的要素の配列によって構成される単位的構造を識別できる。 4) 上記の諸構造物の配列によって構成される組織構造を図示し特徴を説明できる。 5) それぞれの組織標本について組織や器官の種類を同定できる。 6) 各器官の機能や肉眼的レベルの形態と細胞および組織レベルの構造や機能とを対応づけて説明できる。 <p>人体解剖学実習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人体が系統（骨格系、筋系、神経系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌器、感覚器系）から構成されることが体験学習から説明できる。 2) 各器官の肉眼的構造、位置的構造、位置的關係が説明できる。 3) 各器官に分布する血管・神経が説明できる。 4) 関節の構造が説明できる。 5) 個体変異と異常について説明しその背景について考察できる。 |

| | | | | |
|-------|---------|----------------|----|----|
| 授業計画表 | | | | |
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月17日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 担当者 | 時田・姉帯 | | | |
| テーマ | 中神経系解剖学実習1 中枢神経系の被膜及び周囲の骨構造 | | | |
| 授業内容 | 1. 中枢神経系の被膜及び周囲の骨構造について説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて中枢神経系の被膜及び周囲の骨構造を観察し剖出する。 3. 観察結果をスケッチに記録し提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月17日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習2 脊髄の構成と脊髄神経系の構成及び脊柱管の構造 | | |
| | 授業内容 | 1. 脊髄神経系の構成と脊髄及び脊柱管を出入りする周辺の構造と走行経路を説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて脊髄及び脊柱管を観察し剖出する。 3. 観察結果をスケッチに記録し提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月24日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習3 表面から見た脳の区分, クモ膜, 軟膜, 脳底動脈, 脳神経 | | |
| | 授業内容 | 1. 表面から見た脳の区分について説明できる。 2. クモ膜と軟膜について説明できる。 3. 脳底動脈の構成について説明できる。 4. 脳神経の構成と脳を出入りする位置について説明できる。 5. ブタ胎仔標本を用いて脳神経・脳底動脈を剖出し観察する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月24日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習4 表面から見た脳の区分, クモ膜, 軟膜, 脳底動脈, 脳神経 | | |
| | 授業内容 | 1. ブタ胎仔標本を用いて脳神経・脳底動脈を剖出し観察する。 2. 脳神経の構成と脳を出入りする位置と脳底動脈を線描画に記録し提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月01日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習5 硬膜, 矢状鎌, 小脳テント, 内頭蓋底 | | |
| | 授業内容 | 1. 硬膜(矢状鎌, 小脳テント, 静脈洞などを含む)について、その構造と位置関係を説明できる。 2. 内頭蓋底を出入りする神経・脈管について、その構造と位置関係について説明できる。 3. ブタ胎仔標本を用いて、硬膜(矢状鎌, 小脳テント, 静脈洞などを含む)について、その構造と位置関係を観察する。 4. ブタ胎仔標本を用いて、頭蓋底を出入りする神経・脈管について、その構造と位置関係を観察する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月01日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習6 硬膜, 矢状鎌, 小脳テント, 内頭蓋底 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. ブタ胎仔標本を用いて、硬膜(矢状鎌, 小脳テント, 静脈洞などを含む)について、その構造と位置関係を観察する。
2. ブタ胎仔標本を用いて、内頭蓋底を出入りする神経・脈管について、その構造と位置関係を観察する。
3. ブタ胎仔標本での硬膜・内頭蓋底の観察結果を線描画に記録する。
グループワークにて行う。
課題についてはフィードバックを行う。
(予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月08日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習7 神経系に分布する動脈とその環流域1 | | |
| | 授業内容 | 1. 中枢神経系に分布する動脈とその環流域及び中枢神経系の区分について説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて中枢神経系に分布する動脈とその環流域及び中枢神経系の区分について観察する。 3. 観察結果をスケッチに記録し提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月08日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習8 神経系に分布する動脈とその環流域2 | | |
| | 授業内容 | 1. 中枢神経系に分布する動脈とその環流域及び中枢神経系の区分について説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて中枢神経系に分布する動脈とその環流域及び中枢神経系の区分について観察する。 3. 観察結果をスケッチに記録し提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月15日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習9 神経系 矢状断の観察1 | | |
| | 授業内容 | 1. 中枢神経系矢状断にて観察可能な構造物とその位置関係について説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて中枢神経系矢状断標本を作成する。 3. 中枢神経系矢状断標本を観察し、観察可能な構造物の形とその位置関係を観察し、記録画を作成する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月15日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習10 神経系 矢状断の観察2 | | |
| | 授業内容 | 1. ブタ胎仔標本を用いて中枢神経系矢状断標本を作成する。 2. 中枢神経系矢状断標本を観察し、観察可能な構造物の形とその位置関係を観察し、記録画を作成する。 3. 中枢神経系矢状断面で観察可能な構造物の機能について説明できる。 4. 記録画の提出 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月22日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習11 神経系 横断面の観察1 | | |

| | | | | |
|------|--|---|----|----|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大脳・間脳の横断面で観察可能な構造物(灰白質(皮質・基底核)、白質、脳室など)の形とその位置関係について説明できる。 2. ブタ胎仔標本を用いて大脳・間脳横断面標本を作成する。 3. 大脳・間脳横断面標本を観察し、灰白質(皮質・基底核)、白質、脳室などの形とその位置関係を観察し、記録画を作成する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月22日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中神経系解剖学実習12 中枢神経系 横断面の観察2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ブタ胎仔標本を用いて大脳・間脳横断面標本を作成する。 2. 大脳・間脳横断面標本を観察し、灰白質(皮質・基底核)、白質、脳室などの形とその位置関係を観察し、記録画を作成する。 3. 大脳・間脳の横断面で観察可能な構造物(灰白質(皮質・基底核)、白質、脳室など)の機能について説明できる。 4. 記録画の提出 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月29日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 観察所見の報告1-1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察した標本より適宜選択して観察所見を発表する。 2. 教員からの質問に答えるとともに互いにディスカッションを行う。 3. 発表者は質疑応答やディスカッションの内容をふまえてスケッチを修正し、レポートを提出する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月29日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 観察所見の報告1-2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察した標本より適宜選択して観察所見を発表する。 2. 教員からの質問に答えるとともに互いにディスカッションを行う。 3. 発表者は質疑応答やディスカッションの内容をふまえてスケッチを修正し、レポートを提出する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月05日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習1 脊髄横断面組織標本の観察・記録-1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 観察可能な標本：□脊髄横断面 2. 脊髄の組織構造と特徴、それらと機能との関係を考察する。 3. スケッチ提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月05日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習2 脊髄横断面組織標本の観察・記録-2 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 観察可能な標本：□脊髓横断面
 2. 脊髄の組織構造と特徴，それらと機能との関係を考察する。
 3. スケッチ提出。
グループワークにて行う。
- 課題についてはフィードバックを行う。
(予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月12日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習3 小脳組織標本の観察・記録-1 | | |
| | 授業内容 | 1. 観察可能な標本：□小脳 2. 小脳の組織構造と特徴，それらと機能との関係を考察する。 3. スケッチ提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月12日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習4 小脳組織標本の観察・記録-2 | | |
| | 授業内容 | 1. 観察可能な標本：□小脳 2. 小脳の組織構造と特徴，それらと機能との関係を考察する。 3. スケッチ提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月19日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習5 大脳皮質標本の観察・記録-1 | | |
| | 授業内容 | 1. 観察可能な標本：□□大脳皮質 2. 大脳の組織構造と特徴，それらと機能との関係を考察する。 3. スケッチ提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月19日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 中枢神経系組織学実習6 大脳皮質標本の観察・記録-2 | | |
| | 授業内容 | 1. 観察可能な標本：□□大脳皮質 2. 大脳の組織構造と特徴，それらと機能との関係を考察する。 3. スケッチ提出。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月26日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301・101・102 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 観察所見の報告2 | | |
| | 授業内容 | 1. 観察した標本より適宜選択して観察所見を発表する。 2. 教員からの質問に答えるとともに互いにディスカッションを行う。 3. 発表者は質疑応答やディスカッションの内容をふまえてスケッチを修正し、レポートを提出する。 グループワークにて行う。 課題についてはフィードバックを行う。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月26日(木) | 時限 | 4限 |

| | | | | |
|------|-------------|---|----|----|
| 講義室 | 301・101・102 | | | |
| 担当者 | 時田・姉帯 | | | |
| テーマ | " | | | |
| 授業内容 | " | | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月03日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習1 背部浅層 | | |
| | 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・実習の進めかた ・篤志家と献体、倫理的配慮について 1. 体表からの触知でランドマークとなる箇所が説明できる。 2. 脊髄神経後枝について説明できる。 3. 背部浅層の筋について説明できる。 4. 殿部の皮神経について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月03日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月04日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習2 頸部・胸腹部浅層 | | |
| | 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 体表からの触知でランドマークとなる箇所が説明できる。 2. 頸部表層の筋について説明できる。 3. 頸神経叢について説明できる。 4. 胸・腹部表層の筋について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月04日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月10日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習3 背部深層、脊髄 | | |
| | 授業内容 | <ul style="list-style-type: none"> 1. 背部深層の筋について説明できる。 2. 殿部の筋について説明できる。 3. 仙骨神経叢について説明できる。 4. 脊髄と脊髄神経について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月10日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月11日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習4 上肢帯、開胸・開腹 | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 上肢帯・上腕の筋について説明できる。 2. 上肢皮静脈について説明できる。 3. 腕神経叢について説明できる。 4. 腹壁の筋について説明できる。 5. 腹部に存在する器官の名称をあげることができる。 6. 胸部に存在する器官の名称をあげることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月11日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 31 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月17日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習5 胸腹部内臓、腰神経叢 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓について説明できる。 2. 肺について説明できる。 3. 腹部内臓と腹膜との関係を説明できる。 4. 腰神経叢について説明できる。 5. 腹部内臓の脈管について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 32 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月17日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 33 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月18日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習6 大腿・下腿後面 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿後面の筋について説明できる。 2. 下腿後面の筋について説明できる。 3. 下腿後面の神経について説明できる。 4. 下腿後面の脈管について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 34 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月18日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 35 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月07日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習7 大腿・下腿の前面 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 大腿前面の筋について説明できる。 2. 下腿前面の筋について説明できる。 3. 下腿前面の神経について説明できる。 4. 下腿前面の脈管について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 36 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月07日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |

| | | | | |
|------|---------|--|----|----|
| 授業内容 | " | | | |
| 37 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月08日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習8 心臓、骨盤内臓 | | |
| | 授業内容 | 1. 心臓について説明できる。 2. 縦隔について説明できる。 3. 骨盤内臓について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 38 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月08日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 39 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月14日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習9 前腕・手 | | |
| | 授業内容 | 1. 前腕・手の筋について説明できる。 2. 前腕・手の神経について説明できる。 3. 前腕・手の脈管について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 40 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月14日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 41 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月15日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習10 下腿・足 | | |
| | 授業内容 | 1. 下腿・足の筋について説明できる。 2. 下腿・足の神経について説明できる。 3. 下腿・足の脈管について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 42 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月15日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 43 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月21日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習11 髄膜・脳 | | |
| | 授業内容 | 1. 頭蓋腔と髄膜について説明できる。 2. 脳について説明できる。 3. 肩関節、肘関節、手首の関節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 44 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月21日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| テーマ | // | | | |
| 授業内容 | // | | | |
| 45 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月22日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 毛呂山キャンパス・医学部解剖学実習室 | | |
| | 担当者 | 山岸・小野・姉帯・高野・栗崎・青地 | | |
| | テーマ | 人体解剖学実習12 関節 | | |
| | 授業内容 | 1. 股関節、足首の関節について説明できる。 2. まとめ (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. 下記2, 3に記載の試験及び授業期間中の課題, それぞれについて60点以上で単位認定とする。 2. 前期末(夏期休暇前)に筆記試験(7月10日3限)と組織学の実物検鏡試験(7月17日3限)とブタ胎仔標本を用いた実物試験(7月17日4限)を行う。 3. 後期定期試験期間中に解剖学実習に関する確認テストと記述試験を行う。 4. 不合格者には再試験を実施する。 | | | |
| 教科書 | 1. diFiore人体組織図譜 V.P. Eroschenko (著), 相磯 貞和 (翻訳)南江堂 2. 神経解剖学 新見嘉兵衛 朝倉書店 3. 分担 解剖学2 脈管学・神経系 平沢興 金原出版 4. 日本人体解剖学 下巻、金子丑之助他、南山堂 5. 資料を配付する。 | | | |
| 参考書 | 授業時に紹介する。 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【時田幸之輔】月曜日2限目 この時間帯で可能であればいつでも対応する。その他、下記の連絡先等を利用してアポイントメントをとること。 E-mail: tokita@saitama-med. ac. jp 【山岸 敏之】 月曜日・火曜日12時~13時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 e-mail: toshiya@saitama-med. ac. jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には実習予定にしたがい教科書等で実習内容や手順等を十分に理解しておくこと。また、実習後には課題作成のための文献検索や教科書での確認を怠らないこと。 課題は実習終了後指定された期日内に提出してください。 ○実習においては徹底した観察, 記録, 考察を行う。ひとつの標本に対しても, これをくり返し行うことにより, より深い理解に達する。 ○上記を実現するため実習において最も重要なことは, 十分な予習を行って授業にのぞむことである。シラバスおよび配布資料にしたがい毎回の実習範囲および内容を理解し, 教科書・参考書等に当たって十二分に予習を行うこと。 ○組織学実習においては授業時間以外の時間での自主的な顕微鏡使用による観察を許可する。活用してほしい。 ○11月14日1限に人体解剖学実習についてのオリエンテーションと倫理的配慮について説明します。必ず出席すること。 | | | |

| | | | |
|--------|-------------------------|------|-------|
| 講義名 | 人体の構造と機能実習（機能系） | | |
| （副題） | 専門基礎分野（人体の構造と機能及び心身の発達） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 1 | 時間 | 45.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 1単位/45時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 指定なし | ◎ 藤原 智徳 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 藤原 智徳・金子 優子・時田幸之輔・山本 梓司・姉帯 沙織・甘利 貴志 |
| 科目の目標 | 生体は様々な物理的、化学的な原理に基づいて機能している。従って、生体の機能は機械工学的あるいは電子工学的な装置で測定が可能である。特に電子工学的な装置の発達は目覚ましく、短時間で精度の高い測定が可能となってきている。しかしながら、その反面では測定の原理的な面が蔑ろにされがちである。本実習では、講義で学んだ様々な生理機能に関してその原理原則の理解を深めるべく、動物や学生自身を対象とした体験的な学習を行う。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>2グループに分け、下記6テーマ（1クール3テーマ、2クール3テーマ）をローテーションで実施する。</p> <p>第1クール</p> <p>【実習テーマ1】生体膜 【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半透膜の性質について説明できる。 2. 生体膜を介した物質の輸送について説明できる。 3. 膜電位の発生について説明できる。 <p>【実習テーマ2】神経伝導 対象：カエル 【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. 電気刺激で活動電位を誘発し、活動電位を記録できる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. 神経の伝導速度を測定できる。 6. 神経構造と伝導速度との関係を説明できる。 <p>【実習テーマ3】筋電図 被験者：学生 【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 <p>第2クール</p> <p>【実習テーマ4】誘筋電図 被験者：学生 【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 2. 刺激強度と誘筋電図の関係を解析し体内で起きている現象を説明できる。 <p>【実習テーマ5】心臓 被験者：学生 【学習の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 |

2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。
3. 心電図波形をもとに、心拍数の測定、平均QRS電気軸を求めることができる。

【実習テーマ6】心臓 対象：カエル

【学習の目標】

1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器を使い、心電図を記録できる。
2. 心電図記録で得られた各波形について説明できる。
3. 心臓の刺激伝導系を説明できる。
4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。

授業計画表

Aグループ

| | | | | |
|---|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月11日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習オリエンテーション | | |
| | 授業内容 | 1. 実習の心得を説明できる。 2. 実習レポートの書き方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月11日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習前確認試験 第1クール説明 | | |
| | 授業内容 | 1年次に学んだ内容を復習し、説明できる。 第1クールの実習の内容を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B203 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習1 生体膜 | | |
| | 授業内容 | 1. 半透膜の性質について説明できる。 2. 生体膜を介した物質の輸送について説明できる。 3. 浸透圧について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B203 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習1 生体膜 | | |
| | 授業内容 | 1. 半透膜の性質について説明できる。 2. 生体膜を介した物質の輸送について説明できる。 3. 浸透圧について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験2 神経伝導 | | |
| | 授業内容 | 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験2 神経伝導 | | |
| | | | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 授業内容 | 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 2 神経伝導 | | |
| | 授業内容 | 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月09日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 3 筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月09日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 3 筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月09日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 3 筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月30日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第 1 クールのまとめ | | |
| | 授業内容 | 実習テーマ1~3について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。 各実習項目の内容とその意味について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月30日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第 1 クールの確認試験 第 2 クール説明 | | |
| | 授業内容 | 第 1 クールの実習で学んだことを説明できる。 第 2 クールで実施する実習の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | | |
| 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月27日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験6 カエル心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月27日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | | |
| テーマ | 実験6 カエル心電図 | | | |
| 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月27日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験6 カエル心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月11日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第2クールのまとめ 第2クールの確認試験 | | |
| | 授業内容 | 実習テーマ4~6について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。 各実習項目の内容とその意味について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月11日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第2クールのまとめ 第2クールの確認試験 | | |
| | 授業内容 | 実習テーマ4~6について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。 各実習項目の内容とその意味について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

Bグループ

| | | | | |
|---|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月11日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習オリエンテーション | | |
| | 授業内容 | 1. 実習の心得を説明できる。 2. 実習レポートの書き方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月11日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実習前確認試験 第1クール説明 | | |
| | 授業内容 | 1年次に学んだ内容を復習し、説明できる。 第1クールの実習の内容を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験2 神経伝導 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。
 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。
 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。
 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。
 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|---|----|----|
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 2 神経伝導 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 2 神経伝導 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気刺激装置や記録計を操作できる。 2. 活動電位の発生のメカニズムを説明できる。 3. カエル坐骨神経標本を作製し、活動電位の誘発・記録ができる。 4. 刺激強度と活動電位の発生との関係を説明できる。 5. カエル坐骨神経の伝導速度を計測できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B203 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 1 生体膜 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 半透膜の性質について説明できる。 2. 生体膜を介した物質の輸送について説明できる。 3. 浸透圧について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B203 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 1 生体膜 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 半透膜の性質について説明できる。 2. 生体膜を介した物質の輸送について説明できる。 3. 浸透圧について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月16日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 3 筋電図 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月16日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験 3 筋電図 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月16日(金) | 時限 | 5限 |

| | | | | |
|------|--|---|----|----|
| 講義室 | B205 | | | |
| 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | | |
| テーマ | 実験3 筋電図 | | | |
| 授業内容 | 1. 自分あるいは被験者から筋電図を記録することができる。 2. 筋電図をもとに、筋活動とそれを引き起こす神経活動を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月30日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第1クールのまとめ | | |
| | 授業内容 | 実習テーマ1~3について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。 各実習項目の内容とその意味について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月30日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第1クールの確認試験 第2クール説明 | | |
| | 授業内容 | 第1クールの実習で学んだことを説明できる。 第2クールで実施する実習の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月06日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験5 ヒト心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極の装着、記録器への接続をし、被験者の心電図を記録できる。 2. 心電図波形の意味を心臓の動きと関連付けて説明できる。 3. ヒトの心拍数の調節について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 4限 |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 講義室 | B205 | | | |
| 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | | |
| テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | | |
| 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月13日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験4 誘発筋電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 皮膚上から神経を電氣的刺激することができる。 2. 誘発された筋電図から、体内情報伝達の神経経路を説明することができる。 3. 刺激強度と誘発筋電図の関係を解析し体内で起こっている現象を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月20日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験6 カエル心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月20日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験6 カエル心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月20日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | B205 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 実験6 カエル心電図 | | |
| | 授業内容 | 1. 電極、増幅器、オシロスコープ、記録器に配線することができる。 2. カエルを用いて心電図の記録ができる。 3. 心電図波形を説明できる。 4. 異常心電図の発生のメカニズムを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月11日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第2クールのまとめ 第2クールの確認試験 | | |
| | 授業内容 | 実習テーマ4~6について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。 各実習項目の内容とその意味について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月11日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C208 | | |
| | 担当者 | 藤原・金子・時田・山本・姉帯・甘利 | | |
| | テーマ | 第2クールのまとめ 第2クールの確認試験 | | |
| | 授業内容 | | | |

実習テーマ4～6について、作成したレポートを参照し、データの比較・討論できる。
各実習項目の内容とその意味について説明できる。
(予習時間30分、復習時間30分)

| | |
|-------------|--|
| 評価方法 | 出席状況、実習態度、実習レポート、確認試験を総合的に判断して評価する。 実習レポートを指定された期日までに提出することは必須である。 また、第一クールのまとめ(5/30)、第二クールのまとめ(7/11)に行う確認試験で合格点に達していない場合、再試験を行う。 |
| 教科書 | 「人体の構造と機能 機能系実習書」(4/11のオリエンテーション時に配布) |
| 参考書 | トートラ人体解剖生理学 原書11版(トートラ著、桑木ほか編訳、丸善出版) オックスフォード 生理学 原書4版(Gillian Pocock, Christopher D. Richards, David A. Richards著、岡野ほか編訳、丸善出版) |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 藤原 智徳 e-mail: tfuj@saitama-med.ac.jp 木曜日3、4限 金子 優子 e-mail: yukaneko@saitama-med.ac.jp 火曜日の4、5限目 時田幸之輔 e-mail: tokita@saitama-med.ac.jp 木曜日2限目 山本 梓司 e-mail: shinjiy@saitama-med.ac.jp 水曜日12時～13時 姉帯 沙織 e-mail: saori_a@saitama-med.ac.jp 木曜日2限目 甘利 貴志 e-mail: amari@saitama-med.ac.jp 水曜日2限目 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 実習前に実習書を必ず読んでおくこと。 2. 教科書、講義資料で実習内容を予習してくる。 3. 各実習には、予習課題が出される。予習課題は、実習当日に提出する。 4. 実習にふさわしい服装で参加すること。白衣、実習用の靴を着用。 5. 疑問点は遠慮なく質問すること。 6. レポートは指定された期日を厳守する。 7. 各実習のレポートは、第一クールのまとめ、第二クールのまとめで返却する。再提出が支持された場合、期日までに提出する。 8. 体調不良などで欠席する場合は、必ず藤原まで連絡すること。 |

| | | | |
|--------|-------------------------|------|-------|
| 講義名 | 運動学演習 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（人体の構造と機能及び心身の発達） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 60.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/60時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 赤坂 清和 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 赤坂 清和・大久保 雄・澤田 豊・服部 寛 |
| 科目の目標 | 人体の構造と機能および基礎運動学などの知識をもとに、理学療法の治療対象となる身体部位に対する運動学的特徴に関する理解を深めること、および運動療法を実施する際に必要となる正常な関節運動学および病態運動学に関する基礎的な知識について理解を深めることを目標とする。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>アクティブラーニングを含めた演習を通して以下の学習目標を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 身体の解剖学的指標ランドマークを触診することができる。 2) 身体の主な関節における緩みの肢位と締まりの肢位を説明できる。 3) 正常な運動のために活動する筋の役割を生体力学的に説明できる。 4) 運動に関与する関節とそれぞれの関節の動く方向について説明できる。 5) 病的な運動パターンが生じているときにその原因となる筋の活動を確かめることができる。 6) 筋のストレッチするために適切な方向を説明できる。 7) 整形外科徒手検査に関連して、運動パターンにより関節に生じるストレスの部位を説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月15日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 筋骨格系の主要構造(1) | | |
| | 授業内容 | 身体運動学における運動学および運動力学について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月15日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 筋骨格系の主要構造(2) | | |
| | 授業内容 | 骨格を運動させる筋の役割と機能について説明することができる。 関節と軟部組織の構造と運動から見た機能について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月22日(火) | 時限 | 3限 |
| | | | | |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| 講義室 | 運動療法実習室1 | | | |
| 担当者 | 赤坂・服部 | | | |
| テーマ | 応用運動学総論 | | | |
| 授業内容 | 身体運動学における運動学および運動力学について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月22日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 赤坂・服部 | | |
| | テーマ | 人体の基本構造と機能 | | |
| | 授業内容 | 人体の基本構造と機能について説明することができる。 骨、関節、軟部組織の分類と機能、役割について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月13日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 生体力学の原理(1) | | |
| | 授業内容 | ニュートンの法則について説明することができる。 静力学的解析と動力学的解析について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月13日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 生体力学の原理(2) | | |
| | 授業内容 | ニュートンの法則について説明することができる。 静力学的解析と動力学的解析について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月20日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 肩複合体(1) | | |
| | 授業内容 | 肩の構造について説明することができる。 肩の関節運動について説明することができる。 肩の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月20日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 肩複合体(2) | | |
| | 授業内容 | 肩の構造について説明することができる。 肩の関節運動について説明することができる。 肩の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月27日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 肘と前腕 | | |
| | 授業内容 | 肘と前腕の構造について説明することができる。 肘と前腕の関節運動について説明することができる。 肘と前腕の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月27日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |

| テーマ | 肘と前腕 | | | |
|------|--|---|----|----|
| 授業内容 | 肘と前腕の構造について説明することができる。 肘と前腕の関節運動について説明することができる。 肘と前腕の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月03日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保・服部 | | |
| | テーマ | 手関節 | | |
| | 授業内容 | 手関節の構造について説明することができる。 手関節の関節運動について説明することができる。 手関節の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月03日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保・服部 | | |
| | テーマ | 手関節 | | |
| | 授業内容 | 手関節の構造について説明することができる。 手関節の関節運動について説明することができる。 手関節の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月10日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保・服部 | | |
| | テーマ | 手 | | |
| | 授業内容 | 手の構造について説明することができる。 手の関節運動について説明することができる。 手の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月10日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保・服部 | | |
| | テーマ | 手 | | |
| | 授業内容 | 手の構造について説明することができる。 手の関節運動について説明することができる。 手の関節運動に関与する筋とその機能について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月17日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 赤坂・服部 | | |
| | テーマ | 体軸関節(1) | | |
| | 授業内容 | 脊椎と骨盤の構造について説明することができる。 脊椎と骨盤の関節運動について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月17日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 赤坂・服部 | | |
| | テーマ | 体軸関節(2) | | |
| | 授業内容 | 脊椎と骨盤の構造について説明することができる。 脊椎と骨盤の関節運動について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月24日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| テーマ | 体軸関節(3) | | | |
| 授業内容 | 脊椎と骨盤に作用する筋について説明することができる。 脊椎と骨盤の関節運動に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月24日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 体軸関節(4) | | |
| | 授業内容 | 脊椎と骨盤に作用する筋について説明することができる。 脊椎と骨盤の関節運動に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月01日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 呼吸と咀嚼 | | |
| | 授業内容 | 呼吸運動について説明することができる。 呼吸に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 咀嚼に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月01日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 呼吸と咀嚼 | | |
| | 授業内容 | 呼吸運動について説明することができる。 呼吸に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 咀嚼に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月08日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 股関節(1) | | |
| | 授業内容 | 股関節運動について説明することができる。 股関節に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月08日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 股関節(2) | | |
| | 授業内容 | 股関節運動について説明することができる。 股関節に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月15日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 膝関節(1) | | |
| | 授業内容 | 膝関節運動について説明することができる。 膝関節に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月15日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 膝関節(2) | | |
| | 授業内容 | | | |

膝関節運動について説明することができる。
 膝関節に関与する筋について触診しながら確かめることができる。
 (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月22日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 足関節(1) | | |
| | 授業内容 | 足関節と足部の運動について説明することができる。 足関節と足部に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月22日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部 | | |
| | テーマ | 足関節(2) | | |
| | 授業内容 | 足関節と足部の運動について説明することができる。 足関節と足部に関与する筋について触診しながら確かめることができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月29日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 歩行(1) | | |
| | 授業内容 | 運動学から見た歩行について説明することができる。 歩行に関与する筋について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月29日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 歩行(2) | | |
| | 授業内容 | 運動学から見た歩行について説明することができる。 歩行に関与する筋について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月30日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 走行(1) | | |
| | 授業内容 | 運動学から見た走行について説明することができる。 走行に関与する筋について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月30日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 澤田 | | |
| | テーマ | 走行(2) | | |
| | 授業内容 | 運動学から見た走行について説明することができる。 走行に関与する筋について説明することができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | |
|------|---|
| 評価方法 | 出席状況、授業態度、課題やレポート(ここまで10%)、定期試験期間中に行う期末試験(90%)などにより、総合的に評価する。また、発表に対して全体でコメントをしながら、ディスカッションをする。 |
| 教科書 | 1. 筋骨格系のキネシオロジー、原著第3版、Donald A. Neumann著、医歯薬出版 |
| 参考書 | 1. 運動学テキスト改訂第2版、細田多穂監修、藤縄理・赤坂清和・濱口豊太編集、南江堂 |

| | |
|-------------|--|
| 連絡先/オフィスアワー | <p>授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【赤坂 清和】 月曜日と金曜日の13-16時とする。 上記時間帯に訪問することが難しい場合には、事前にアポイントメントをとること。 E-mail : akasaka@saitama-med. ac. jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | <p>授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。</p> |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 病理・微生物学演習 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 1 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 5限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 1単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|-------------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 指定なし | ◎ 佐藤 正夫 | 非常勤教員（大学外部） |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 佐藤 正夫 |
| 科目の目標 | 感染症の症候や病態生理を学ぶための基盤として、病原微生物の基礎的な知識を病理学的な面も含めて修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 微生物の分類ができる。 2) 感染の成立と予防について説明できる。 3) 滅菌と消毒について説明できる。 4) 細菌の一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 5) 細菌の病原性について説明できる。 6) ウイルスの一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 7) ウイルスの病原性について説明できる。 8) 真菌の一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 9) 真菌の病原性について説明できる。 10) 原虫の一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 11) 原虫、蠕虫、衛生動物の病原性について説明できる。 12) 組織の病理学的変化について説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月03日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 総論：微生物の分類と感染対策 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の分類ができる。 2. 感染の成立と予防について説明できる。 3. 滅菌と消毒について説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月10日(金) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌1：細菌の一般的性質 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 細菌の一般的性状について説明できる。
 2. 細菌の一般的検査法について説明できる。
 3. 細菌の一般的治療法について説明できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|---|---------|---|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月17日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌2: 細菌の病原性1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. グラム陽性通性嫌気性球菌の病原性について説明できる。 2. グラム陰性通性嫌気性桿菌の病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月24日(金) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌3: 細菌の病原性2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微好気性、グラム陰性らせん菌の病原性について説明できる。 2. グラム陰性好気性桿菌の病原性について説明できる。 3. グラム陰性好気性球菌の病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月31日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌4: 細菌の病原性3 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. グラム陽性好気性桿菌の病原性について説明できる。 2. 通性嫌気性桿菌の病原性について説明できる。 3. 偏性嫌気性菌の病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月07日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌5: 細菌の病原性4 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. マイコバクテリウムの病原性について説明できる。 2. アクチノミセス、ノカルジアの病原性について説明できる。 3. スピロヘータの病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月14日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 細菌6: 細菌の病原性5 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. マイコプラズマの病原性について説明できる。 2. リケッチアの病原性について説明できる。 3. クラミジアの病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月21日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | ウイルス1: ウイルスの一般的性質 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルスの一般的性状について説明できる。 2. ウイルスの一般的検査法について説明できる。 3. ウイルスの一般的治療法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月28日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | ウイルス2: ウイルスの病原性1 | | |

| | | | | |
|------|--|---|----|----|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ポックスウイルスの病原性について説明できる。 2. ヘルペスウイルスの病原性について説明できる。 3. アデノウイルスの病原性について説明できる。 4. パポウイルスの病原性について説明できる。 5. パルボウイルスの病原性について説明できる。 6. オルソミクソウイルスの病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月05日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | ウイルス3: ウイルスの病原性2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パラミクソウイルスの病原性について説明できる。 2. ラブドウイルスの病原性について説明できる。 3. トガウイルスの病原性について説明できる。 4. フラビウイルスの病原性について説明できる。 5. コロナウイルスの病原性について説明できる。 6. アレナウイルスの病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月12日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | ウイルス4: ウイルスの病原性3 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. フィロウイルスの病原性について説明できる。 2. ブニヤウイルスの病原性について説明できる。 3. ビコルナウイルスの病原性について説明できる。 4. レオウイルスの病原性について説明できる。 5. カリシウイルスの病原性について説明できる。 6. レトロウイルスの病原性について説明できる。 7. 肝炎ウイルスの病原性について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月19日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 真菌、原虫: 真菌、原虫の一般的性質と病原性 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 真菌の一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 2. 深部真菌症について説明できる。 3. 表在性真菌症について説明できる。 4. 原虫の一般的性状、検査法、治療法について説明できる。 5. 病原性の原虫症について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月09日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 寄生虫(蠕虫)、衛生動物: 寄生虫(蠕虫)、衛生動物の一般的性質と病原性 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 寄生虫(蠕虫)の病害について説明できる。 2. 衛生動物の病害について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月16日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 病理1: 組織の病理学的変化1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞や組織の病理学的変化について説明できる。 2. 感染症や炎症組織での病理学的変化について説明できる。 3. 腫瘍組織での病理学的変化について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月23日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 講堂2F | | |
| | 担当者 | 佐藤 | | |
| | テーマ | 病理2: 組織の病理学的変化2 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業内容 | 1. 主な感染症や炎症での病理学的変化について説明できる。 2. 主な腫瘍での病理学的変化について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) |
| 評価方法 | 1. 後期試験期間中に試験（マークシート）を行い、出席状況、授業態度も含めて総合的に判断して評価する。 2. 試験内容は全範囲/60分 3. 不合格者には再試験を行う。 |
| 教科書 | 1. コンパクト微生物学、小熊恵二他著、南江堂 |
| 参考書 | 1. カラーで学べる病理学、渡辺照男編、ヌーヴェルヒロカワ |
| 連絡先/オフィスアワー | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業後に教室にて相談を受け付ける。 ・ 随時、メールにて質問を受け付ける。 E-mail : satoma@saitama-med.ac.jp |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当部分を予習し、内容の意味を理解しておくこと。また、授業後には教科書やプリントでの確認を怠らないこと。(予習時間30分、復習時間30分) |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気Ⅰ | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 茅野 秀一・田邊 一郎・池田 将樹・嶋崎 晴雄 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、診療に関する基本的な事項を理解し、神経疾患の症候と検査に関する基本的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>【総論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病の成立要因について説明できる。 2) 疾病による組織の障害とその回復過程について概説できる。 3) 疾病の診断から治療にいたる流れを説明できる。 4) 身体診察法と各種の検査法について概説できる。 5) 基本的な症候とその病態について説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月16日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 総論1：診療の流れ、身体診察法1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接の意義とその概要を説明できる。 2. 基本的な身体診察の手順について、その概要を説明できる。 3. 基本的な臨床検査について、その概要を説明できる。 4. 基本的な治療法について、その概要を説明できる。 5. 医療面接から身体診察、検査、診断、治療にいたる一連の診療の流れを説明できる。 6. 診療を行う上で留意すべき事項を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月17日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 総論3：身体診察法2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体診察を行う上で留意すべき事項を説明できる。 2. バイタルサインのとり方を説明できる。 3. 頭頸部、胸部、腹部、四肢の基本的な診察法と異常所見の診かたを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|---|---------|---|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月23日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 総論5：神経学的診察法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経学的診察を行う上で留意すべき事項を説明できる。 2. 脳神経系の診察法と異常所見の診かたを説明できる。 3. 運動系の診察法と異常所見の診かたを説明できる。 4. 感覚系の診察法と異常所見の診かたを説明できる。 5. 反射の診察法と異常所見の診かたを説明できる。 6. 髄膜刺激徴候の診察法と異常所見の診かたを説明できる。 *意識および大脳高次機能障害については、総論13および神経総論9で解説する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月24日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 総論7：尿・便・血液検査、生理機能検査 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的な尿・便検査の種類と意義を簡単に説明できる。 2. 代表的な血液検査の種類と意義を簡単に説明できる。 3. 尿・便・血液検査の検体採取法について簡単に説明できる。 4. 代表的な生理機能検査の種類と意義を簡単に説明できる。 5. 検査を行う上で留意すべき事項を説明できる。 6. 検査結果を解釈する上で留意すべき事項を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月30日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 総論12：バイタルサイン、発熱、動悸・不整脈 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. バイタルサインを列挙し、その意義を簡単に説明できる。 2. 発熱の定義とその病態生理を説明できる。 3. 発熱をきたす疾患を分類して列挙できる。 4. 熱型の種類と、その代表的な疾患を列挙できる。 5. 動悸の症候とその病態生理を説明できる。 6. 動悸をきたす疾患を分類して列挙できる。 7. 不整脈の種類とその特徴を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月01日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 茅野 | | |
| | テーマ | 総論2：疾病の要因、循環障害(病理総論1) | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病の発生原因、発生機序につき説明できる。 2. 遺伝子異常や染色体異常に由来する疾患の概略と代表的疾患を概説できる。 3. 出血、梗塞等の循環障害に関する基礎的医学用語を説明できる。 4. 主要な臓器で高頻度に見られる循環障害の疾患名を挙げて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月07日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 総論14：咳・痰、喀血、呼吸困難と息切れ、チアノーゼ | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 咳と痰の発生機序を説明できる。 2. 咳や痰をきたす代表的な疾患を列挙できる。 3. 喀血と吐血の差異を述べ、喀血をきたす代表的な疾患を列挙できる。 4. 呼吸困難をきたしうる各種の病態を簡単に説明し、それぞれに代表的な疾患を列挙できる。 5. チアノーゼの症候とその病態を簡単に説明できる。 6. チアノーゼをきたす代表的な疾患を列挙できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月08日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 茅野 | | |
| | テーマ | 総論4：障害に対する細胞の反応；炎症(病理総論2) | | |
| | 授業内容 | | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 壊死、再生、肉芽組織等の基礎的医学用語の定義と意味を説明できる。 炎症と呼ばれる病変にみられる現象を説明できる。 炎症の時間経過に基づく分類、形態に基づく分類を説明できる。 主要な臓器で高頻度に見られる炎症を挙げて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月14日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 総論8: 胸痛と腹痛 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 胸痛をきたす疾患とその特徴を、循環器系と非循環器系に分けて説明できる。 腹痛を内臓痛、体性痛、関連痛に分け、それぞれの特徴について説明できる。 腹痛をきたす疾患を挙げ、それぞれの腹痛の特徴について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月15日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 茅野 | | |
| | テーマ | 総論6: 腫瘍(病理総論3) | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 腫瘍の定義を説明できる。 良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の相違点が説明できる。 腫瘍の肉眼的および組織学的形態を説明できる。 悪性腫瘍の増殖の特徴、転移等が説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月21日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 総論9: 悪心・嘔吐、吐血と下血、ショック | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 悪心・嘔吐の発生機序を中枢性と末梢性に分けて説明できる。 悪心・嘔吐をきたす代表的な疾患を列挙できる。 嘔吐による電解質異常と、その症候について説明できる。 吐血や下血をきたす疾患を列挙し、失血による全身状態の変化について説明できる。 ショックの一般的な症候を説明できる。 ショックの病態と原因疾患を分類して概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月22日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 総論10: 画像検査 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 単純XP、造影XP、CT、MRIの原理および種類と適応を概説できる。 RI検査の原理および種類と適応を概説できる。 これらの検査を行う際の留意点を簡単に説明できる。 それぞれの検査で見られる代表的な画像所見を簡単に説明できる。 超音波検査の原理および種類と適応を概説できる。 内視鏡検査の原理および種類と適応を概説できる。 超音波および内視鏡検査で見られる代表的な画像所見を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月28日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 総論11: 脱水、浮腫、胸水、腹水 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 脱水の発生機序を説明し、脱水をきたす代表的な疾患を列挙できる。 浮腫の発生機序を説明し、浮腫をきたす代表的な疾患を列挙できる。 胸水の発生機序を説明し、胸水をきたす代表的な疾患を列挙できる。 腹水の発生機序を説明し、腹水をきたす代表的な疾患を列挙できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月29日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 総論13: 食欲不振、全身倦怠感、意識障害、失神 | | |

| | |
|-------------|--|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食欲を亢進または減退させる要因を列挙できる。 2. 食欲不振をきたす疾患を分類して概説できる。 3. 全身倦怠感をきたす疾患を分類して概説できる。 4. 意識を保持する機構について簡単に説明できる。 5. 意識障害の評価法について簡単に説明できる。 6. 意識障害をきたす疾患を分類して列挙できる。 7. 失神をきたす疾患とその病態について概説できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの病気Ⅰの試験は6月21日(土)3限に、ヒトの病気Ⅱの試験は定期試験期間内に行う。(いずれも多肢選択問題) 2. どちらの試験も、出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。 3. ⅠとⅡとも不合格者には再試験を行う。 |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 |
| 参考書 | ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂 内科学 最新版、朝倉書店 |
| 連絡先/オフィスアワー | <p>授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。</p> <p>【茅野秀一】 月曜日の17時から18時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 メールアドレス：hidekazu@saitama-med.ac.jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気Ⅱ | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 茅野 秀一・池田 将樹・栗田 浩樹 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、診療に関する基本的な事項を理解し、神経疾患の症候と検査に関する基本的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | 【神経総論：神経疾患の症候と検査】 1) 神経疾患の基本的な症候とその病態について説明できる。 2) 神経疾患の診断に必要な各種の検査法について説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月04日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論1：神経系の構造と機能1 | | |
| | 授業内容 | 1. 中枢神経系と末梢神経系の構造について概説できる。 2. 脳室の構造について簡単に説明できる。 3. 大脳皮質の機能局在について簡単に説明できる。 4. 大脳基底核の部位と名称を簡単に説明できる。 5. 脳神経核の部位と名称を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月05日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論2：神経系の構造と機能2 | | |
| | 授業内容 | 1. 錐体路とその連絡路（上位および下位運動ニューロン）について説明できる。 2. 錐体外路系のネットワークについて概説できる。 3. 小脳の遠心路と求心路について簡単に説明できる。 4. 感覚の種類について簡単に説明できる。 5. 感覚の伝導路について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月11日(水) | 時限 | 3限 |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 講義室 | 202 | | | |
| 担当者 | 池田 | | | |
| テーマ | 神経総論3：神経・筋疾患の生理機能検査、神経・筋生検 | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康成人の脳波について簡単に説明できる。 2. 健康な小児と高齢者の脳波について簡単に説明できる。 3. 神経疾患で見られる主要な脳波所見を判別できる。 4. 正常な針筋電図の所見を簡単に説明できる。 5. 針筋電図で見られる異常な所見を説明できる。 6. 神経伝導速度の検査法とその意義について簡単に説明できる。 7. 誘発筋電図の反復刺激で見られる異常を簡単に説明できる。 8. 神経／筋生検の概要を述べ、代表的な異常所見について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月12日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論4：神経・筋疾患の画像診断 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭蓋と脊椎の単純エックス線検査について概説できる。 2. 頭部と脊髄のCT検査およびMRI検査について概説できる。 3. 脳血管造影検査について概説できる。 4. SPECTおよびPET検査について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月18日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論5：髄膜刺激症候、脳脊髄液検査 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 髄膜刺激症候を列挙し、それをきたす疾患について簡単に説明できる。 2. 脳脊髄液の産生と吸収について簡単に説明できる。 3. 脳脊髄液の採取法とその副作用について簡単に説明できる。 4. 脳脊髄液の検査項目と異常所見について簡単に説明できる。 5. 脳脊髄液検査の適応と禁忌を列挙できる。 6. 脳脊髄液検査に異常をきたす疾患について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月19日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論6：運動麻痺 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動障害をきたす5つの病態を説明できる。 2. 運動麻痺の病巣部位とその症候について説明できる。 3. 上位および下位運動ニューロン障害の鑑別点について説明できる。 4. 神経原性筋萎縮と筋原性筋萎縮の鑑別点について説明できる。 5. 反射弓のメカニズムを述べ、反射の低下・消失および亢進について説明できる。 6. 反射の中枢を列挙できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月25日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論7：無動、不随意運動 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 無動の症候について説明できる。 2. 固縮(強剛)と痙直の症候について説明できる。 3. 不随意運動の種類を列挙し、それぞれの特徴を簡単に説明できる。 4. 不随意運動の病巣部位について概説できる。 5. 不随意運動をきたす疾患を列挙できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月26日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論8：運動失調、歩行障害 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 運動失調をきたす2つの病態を説明できる。
 2. 運動失調の症候を簡単に説明できる。
 3. 運動失調をきたす代表的な疾患を列挙できる。
 4. 小脳性失調と感覚性失調の鑑別点を簡単に説明できる。
 5. 歩行障害の5型を列挙し、その病態について説明できる。
 6. 歩行障害をきたす代表的な疾患を列挙できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月02日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論9: 大脳高次機能障害 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 失語の症候と病巣部位について説明できる。 2. 失行・失認の症候と病巣部位について概説できる。 3. 半側空間無視の症候と病巣部位について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月03日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論10: 脳神経障害1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳神経 I ~ XII の名称を列挙できる。 2. 脳神経 I ~ XII の機能を説明できる。 3. 視野障害のパターンとそれぞれの病巣部位について説明できる。 4. 眼球運動にかかわる筋と支配神経について簡単に説明できる。 5. 複視の症候とそれぞれの病巣部位について簡単に説明できる。 6. 対光反射と調節輻輳反射の仕組みについて簡単に説明できる。 7. 動眼神経麻痺の症候、病巣部位および代表的な原因疾患について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月09日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論11: 脳神経障害2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 交代性片麻痺の症候と病巣部位について簡単に説明できる。 2. 瞳孔の異常について簡単に説明できる。 3. 注視麻痺と共同偏視について簡単に説明できる。 4. 三叉神経麻痺の症候および病巣部位について簡単に説明できる。 5. 顔面神経麻痺の症候について簡単に説明できる。 6. 中枢性と末梢性の顔面神経麻痺の鑑別点を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月10日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論12: 脳神経障害3 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 聴力障害の簡易検査法について簡単に説明できる。 2. 舌咽・迷走神経麻痺の症候について簡単に説明できる。 3. 中枢性と末梢性の舌咽・迷走神経麻痺の病態を簡単に説明できる。 4. 球麻痺と仮性球麻痺の病態を簡単に説明できる。 5. 副神経麻痺の症候について簡単に説明できる。 6. 舌下麻痺の症候について簡単に説明できる。 7. 中枢性と末梢性の舌下神経麻痺の鑑別点を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月16日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論13: 感覚障害1・2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 解離性感覚障害について説明できる。 2. 大脳の障害でみられる感覚障害のパターンとその病巣部位を説明できる。 3. 中脳の障害でみられる感覚障害のパターンとその病巣部位を説明できる。 4. 延髄背外側の障害 (Wallenberg症候群) でみられる感覚障害のパターンを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月17日(木) | 時限 | 1限 |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| 講義室 | 202 | | | |
| 担当者 | 茅野 | | | |
| テーマ | 神経総論14：神経病理 | | | |
| 授業内容 | 1. 神経系の傷害様式を説明できる 2. 神経系の主要な循環障害の病理所見を説明できる。 3. 主要な神経変性疾患の病理所見を説明できる。 4. 主要な神経系腫瘍の病理所見を説明できる 5. 主要な末梢神経・筋疾患の病理所見を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月17日(木) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 栗田 | | |
| | テーマ | 神経総論15：脳神経の外科治療 | | |
| | 授業内容 | 1. 脳血管障害の外科治療について簡単に説明できる。 2. 脳腫瘍の外科治療について簡単に説明できる。 3. 脳神経外科手術後の神経学的・理学的評価について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月23日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経総論15：自律神経系排尿・排便障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 脊髄の横断性障害による感覚障害のパターンを説明できる。 2. 脊髄の半側障害 (Brown-Séquard症候群) による感覚障害のパターンを説明できる。 3. 脊髄の前2/3の障害による感覚障害のパターンを説明できる。 4. 脊髄中心部の障害による感覚障害のパターンを説明できる。 5. 馬尾と円錐部の障害による感覚障害のパターンを説明できる。 6. 末梢神経の障害による感覚障害のパターンを説明できる。 7. 排尿のメカニズムを述べ、排尿障害の分類とその特徴を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. ヒトの病気Ⅰの試験は6月21日(土)3限に、ヒトの病気Ⅱの試験は定期試験期間内に行う。(いずれも多肢選択問題) 2. どちらの試験も、出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。 3. ⅠとⅡとも不合格者には再試験を行なう。 | | | |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 | | | |
| 参考書 | 1. ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂 2. 内科学 最新版 朝倉書店 3. 標準外科学 最新版 医学書院 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【茅野秀一】 月曜日の17時から18時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 メールアドレス：hidekazu@saitama-med.ac.jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気Ⅲ | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 茅野 秀一・田邊 一郎・辻 美隆・栗原 進・及川 洋一・矢野 裕也・齊藤 太吾 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、消化器、内分泌・代謝疾患に関する基本的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>【総論】</p> <p>1) 脳死と植物状態について概説できる。</p> <p>【消化器疾患】</p> <p>1) 消化器疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 2) 代表的な消化管疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な消化管疾患の治療と予後について概説できる。 4) 代表的な肝・胆・膵疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 5) 代表的な肝・胆・膵疾患の治療と予後について概説できる。</p> <p>【内分泌・代謝疾患】</p> <p>1) 代謝疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 2) 代表的な代謝疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な代謝疾患の治療と予後について概説できる。 4) 内分泌疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 5) 代表的な内分泌疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 6) 代表的な内分泌疾患の治療と予後について概説できる。</p> |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月11日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 消化器1：消化器疾患の診断と治療 | | |
| | 授業内容 | 1. 消化器の正常構造と機能について簡単に説明できる。 2. 消化器疾患の症候と、その病態生理について説明できる。 3. 消化器疾患の診断における血液・尿・便の生化学検査の種類と適応について説明できる。 4. 消化器疾患の診断におけるエックス線検査、内視鏡検査、超音波検査などの種類と適応について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月18日(金) | 時限 | 2限 |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| 講義室 | C203 | | | |
| 担当者 | 田邊 | | | |
| テーマ | 消化器2：食道・胃・十二指腸 | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道炎、アカラシア、食道静脈瘤などの食道疾患について、その病態と症候を簡単に説明できる。 2. 食道疾患の検査所見と治療について概説できる。 3. 胃炎、胃・十二指腸潰瘍、マロリー・ワイス症候群の病態と症候を簡単に説明できる。 4. これらの疾患の検査所見と治療について概説できる。 5. 胃・十二指腸潰瘍と胃・十二指腸の消化管ホルモンとの関連について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月25日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 茅野 | | |
| | テーマ | 総論：脳死と植物状態 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 昏睡と植物状態について簡単に説明できる。 2. 脳死とは何かを説明できる。 3. 脳死の判定基準を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月02日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 消化器7：消化器疾患の外科的療法1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道癌の手術および集学的治療について簡単に説明できる。 2. 胃癌の手術について簡単に説明できる。 3. 大腸癌・直腸癌の手術について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月09日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 消化器8：消化器疾患の外科的療法2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃十二指腸潰瘍穿孔の手術について簡単に説明できる。 2. 急性虫垂炎の手術について簡単に説明できる。 3. 痔疾患の手術について簡単に説明できる。 4. ヘルニア手術について簡単に説明できる。 5. 胆石症の手術について簡単に説明できる。 6. 閉塞性黄疸に対する処置について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月16日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 消化器3：小腸・大腸 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 吸収不良症候群、イレウス、ヘルニアなどの小腸疾患について、その病態と症候を簡単に説明できる。 2. 吸収不良症候群、イレウス、ヘルニアなどの検査所見と治療について概説できる。 3. 炎症性腸疾患(腸結核、Crohn病、潰瘍性大腸炎)の病態と症候を簡単に説明できる。 4. 炎症性腸疾患の検査所見と治療について概説できる。 5. 急性虫垂炎や大腸ポリープなどポピュラーな大腸疾患の病態と症候を簡単に説明できる。 6. ポピュラーな大腸疾患の検査所見と治療について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月23日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 消化器4：消化管悪性疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 食道癌の症候および検査所見と治療について簡単に説明できる。 2. 胃癌のBorrmann分類や早期胃癌分類について図示しながら説明できる。 3. 胃癌の症候および検査所見と治療について簡単に説明できる。 4. 大腸癌の症候および検査所見と治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月30日(金) | 時限 | 2限 |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 講義室 | C203 | | | |
| 担当者 | 田邊 | | | |
| テーマ | 消化器5：肝・胆・膵1 | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ウイルス性肝炎（A、B、C、D、E）の症候および検査所見について簡単に説明できる。 2. ウイルス性肝炎の予防および治療について概説できる。 3. ウイルス性肝炎患者からの針刺し事故への留意点および対処法について簡単に説明できる。 4. 慢性肝炎の病態と症候および検査所見について概説できる。 5. 肝硬変症の病態と症候および検査所見について概説できる。 6. 肝硬変症の合併症について概説できる。 7. 慢性肝炎と肝硬変症の治療について概説できる。 8. 肝臓の検査所見と治療について概説できる。 9. 慢性肝炎から、肝硬変、肝癌へのプロセスについて概説できる。 10. その他の肝疾患（アルコール性肝障害、薬剤性肝炎など）について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | | |
| 9 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月06日（金） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 消化器6：肝・胆・膵2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 胆嚢・胆道系疾患（胆石、胆道系腫瘍など）の症候および検査所見と治療について簡単に説明できる。 2. 膵臓疾患（急性膵炎、慢性膵炎、膵癌など）の症候および検査所見と治療について簡単に説明できる。 3. 急性腹症の概念、その診断と治療について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 10 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月13日（金） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝6：内分泌疾患の外科的療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 甲状腺機能亢進症および甲状腺腫瘍の手術療法について簡単に説明できる。 2. 副甲状腺腫瘍の手術療法について簡単に説明できる。 3. 副腎腫瘍の手術療法について簡単に説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 11 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月20日（金） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 齊藤 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝3：下垂体・副腎 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 先端巨大症について簡単に説明できる。 2. 尿崩症の病態と症候、検査所見、治療について説明できる。 3. Cushing症候群の病態と症候、検査所見、治療について説明できる。 4. 副腎皮質機能低下症について簡単に説明できる。 5. 原発性アルドステロン症について簡単に説明できる。 6. 褐色細胞腫について簡単に説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 12 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月27日（金） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 栗原 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝4：甲状腺・副甲状腺 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 甲状腺機能亢進症の病態と症候、検査所見について説明できる。 2. 甲状腺機能亢進症の治療について説明できる。 3. 甲状腺機能低下症について簡単に説明できる。 4. 炎症性甲状腺疾患について簡単に説明できる。 5. 甲状腺腫瘍について簡単に説明できる。 6. 副甲状腺機能亢進症について簡単に説明できる。 7. 副甲状腺機能低下症について簡単に説明できる。 8. 多発性内分泌腺腫症（MEN）について簡単に説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 13 | 年月日（曜日） | 令和 7年07月04日（金） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 及川 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝1：診断と治療、糖尿病1 | | |

| | | | | |
|-------------|---|--|----|----|
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌・代謝疾患に特有の症候と一般的な診断手順について概説できる。 2. 栄養とその代謝について概説できる。 3. グリコーゲン合成系と分解系、解糖系と糖新生系、クエン酸回路について概説できる。 4. 糖尿病の病型分類と病因について概説できる。 5. 糖尿病または耐糖能異常をきたす疾患を分類して概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月11日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | G203 | | |
| | 担当者 | 矢野 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝2：糖尿病2 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 糖尿病の一般的な症候と診断について説明できる。 2. 糖尿病の治療および治療上の留意点について説明できる。 3. 糖尿病の合併症とその対策について概説できる。 4. メタボリック症候群について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月18日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | G203 | | |
| | 担当者 | 及川 | | |
| | テーマ | 内分泌・代謝5：その他の代謝異常 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 痛風の病態と症候について簡単に説明できる。 2. 痛風の治療について簡単に説明できる。 3. 脂質異常症の病態と症候について説明できる。 4. 脂質異常症の治療について説明できる。 5. その他の代謝異常症について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトの病気Ⅲの試験は定期試験期間内に行う。(いずれも多肢選択問題) 2. 出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。 3. 定期試験不合格者には再試験期間中に再試験を行う。 | | | |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 | | | |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 内科学 最新版 朝倉書店 2. 標準外科学 最新版 医学書院 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【茅野秀一】 月曜の17時から18時 上記時間帯での訪問が難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 E-mail: hidekazu@saitama-med.ac.jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気Ⅳ | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 茅野 秀一・池田 将樹 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、神経疾患に関する基本的な知識を習得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>【神経疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 神経疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 2) 代表的な神経疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な神経疾患の治療と予後について概説できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月01日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経1：脳血管障害1／分類、脳出血 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血管障害の分類を挙げ、それぞれの病態について説明できる。 2. 脳出血の一般的な症候と出血部位による特徴的な症候について説明できる。 3. 脳浮腫と頭蓋内圧亢進について簡単に説明できる。 4. 脳出血の内科的治療について簡単に説明できる。 5. 脳出血の外科的治療について簡単に説明できる。 6. 脳出血の疫学・リスク因子と予防について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月08日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経2：脳血管障害2／くも膜下出血その他 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. くも膜下出血の症候を簡単に説明できる。 2. くも膜下出血の主要な原因（脳動脈瘤と動静脈奇形）について簡単に説明できる。 3. くも膜下出血の治療と予防について簡単に説明できる。 4. 慢性硬膜下血腫の症候と治療について簡単に説明できる。 5. 頭蓋内出血性疾患の画像所見について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|---|---------|--|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月15日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経3: 脳血管障害3/脳梗塞 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳血栓症および脳塞栓症の症候を説明できる。 2. 一過性脳虚血発作の症候を簡単に説明できる。 3. 脳梗塞の画像所見について簡単に説明できる。 4. 脳梗塞と一過性脳虚血発作の内科的治療について簡単に説明できる。 5. 脳梗塞と一過性脳虚血発作の外科的治療について簡単に説明できる。 6. 虚血性の脳血管障害の疫学・リスク因子と予防について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月22日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経4: 筋疾患/筋ジストロフィー症その他 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 進行性筋ジストロフィー症を分類し、それぞれの病態と症候、検査所見について説明できる。 2. 筋緊張性ジストロフィー症の病態と症候、検査所見について説明できる。 3. 周期性四肢麻痺の病態と症候、検査所見について説明できる。 4. ミトコンドリア脳筋症について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月29日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経5: 機能的疾患/頭痛、めまい、てんかん | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 頭痛をきたす代表的な疾患を挙げ、その病態と症候、治療について簡単に説明できる。 2. めまいをきたす代表的な疾患を挙げ、その病態と症候、治療について簡単に説明できる。 3. てんかん発作をきたす代表的な疾患を挙げ、その病態と症候、脳波所見および治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月05日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経6: 免疫性神経・筋疾患1/MS、GBS | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 多発性硬化症の病態と症候、検査所見について説明できる。 2. 多発性硬化症の治療について簡単に説明できる。 3. Guillain-Barré症候群の病態と症候、検査所見について説明できる。 4. Guillain-Barré症候群の治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月12日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経7: 免疫性神経・筋疾患2/重症筋無力症など | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 重症筋無力症の病態と症候、検査所見について説明できる。 2. 重症筋無力症の治療について簡単に説明できる。 3. 腫瘍随伴神経症候群について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月19日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経8: 変性疾患1/脊髄小脳変性症 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脊髄小脳変性症 (SCD) の分類を列挙できる。 2. オリブ橋小脳萎縮症 (OPCA) の病態と症候について説明できる。 3. Shy-Drager症候群について概説できる。 4. 線条体黒質変性症について概説できる。 5. Friedreich失調症について概説できる。 6. 脊髄小脳変性症の診断と治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月26日(水) | 時限 | 2限 |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| 講義室 | 202 | | | |
| 担当者 | 池田 | | | |
| テーマ | 神経9：変性疾患2／運動ニューロン疾患 | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動ニューロン疾患の分類を説明できる。 2. 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病態と症候について説明できる。 3. 脊髄性進行性筋萎縮症の病態と症候について説明できる。 4. その他の運動ニューロン疾患について概説できる。 5. 運動ニューロン疾患に特徴的な筋電図所見について説明できる。 6. 運動ニューロン疾患の治療について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | | |
| 10 | 年月日（曜日） | 令和 7年12月03日（水） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経10：変性疾患3／DAT、huntington舞蹈病 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Alzheimer病の病態と症候について説明できる。 2. Alzheimer病の診断に有用な画像所見について簡単に説明できる。 3. Alzheimer病の治療について簡単に説明できる。 4. Huntington舞蹈病について簡単に説明できる。 5. 認知症をきたすその他の神経変性疾患について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 11 | 年月日（曜日） | 令和 7年12月10日（水） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経11：変性疾患4／Parkinson病 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Parkinson病の病態と症候について説明できる。 2. Parkinson病の治療について説明できる。 3. Parkinson病治療薬の副作用について簡単に説明できる。 4. Parkinson症候群をきたす疾患について簡単に説明できる。 5. 悪性症候群について概説できる。 6. 本態性振戦について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 12 | 年月日（曜日） | 令和 7年12月17日（水） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経12：神経系感染症；脳炎・髄膜炎など | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳炎・髄膜炎の分類を列挙できる。 2. 脳炎・髄膜炎の一般的な症候を列挙できる。 3. 脳炎・髄膜炎の発症様式と検査所見の特徴を説明できる。 4. 脳炎・髄膜炎の治療について概説できる。 5. その他の神経系感染症について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 13 | 年月日（曜日） | 令和 7年12月24日（水） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経13：脳・脊髄腫瘍、奇形・脊椎疾患に伴う神経症状 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・脊髄腫瘍の病理学的分類を挙げ、その病態について概説できる。 2. 脳・脊髄腫瘍の一般的症候を簡単に説明できる。 3. 脳・脊髄腫瘍の治療について概説できる。 4. 脊髄空洞症について簡単に説明できる。 5. 頽椎症について簡単に説明できる。 6. 奇形に伴う神経症状について概説できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 14 | 年月日（曜日） | 令和 8年01月07日（水） | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田 | | |
| | テーマ | 神経14：末梢神経疾患 | | |
| | 授業内容 | | | |

| | | | | |
|--|---|---|-----|----|
| <p>1. 単ニューロパチー、多発単ニューロパチー、多発ニューロパチーの特徴的な症候について、簡単に説明できる。</p> <p>2. 末梢神経障害をきたす疾患を原因別に列挙し、その病態と検査・治療について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分)</p> | | | | |
| 15 | 年 月 日 (曜日) | 令和 8年01月14日 (水) | 時 限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・茅野 | | |
| | テーマ | 神経15：内科疾患に伴う神経症状 | | |
| | 授業内容 | <p>1. 内科疾患に伴う神経症状について原因別に列挙できる。</p> <p>2. 肝性脳症について簡単に説明できる。</p> <p>3. 尿毒症性脳症とその類縁疾患について簡単に説明できる。</p> <p>4. 肺性脳症について簡単に説明できる。</p> <p>5. Wernicke脳症について簡単に説明できる。</p> <p>6. 糖尿病性昏睡と低血糖症について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 評価方法 | <p>1. ヒトの病気Ⅳの前半部分の試験は12月13日（土）2限に、後半部分の試験は定期試験期間内に行う。（いずれも多肢選択問題）</p> <p>2. ヒトの病気Ⅳの評価は、2つの試験の成績を平均して判定する。</p> <p>3. いずれの試験も、出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。</p> <p>4. 定期試験不合格者には再試験期間中に再試験を行う。</p> | | | |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 | | | |
| 参考書 | <p>1. ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂</p> <p>2. 内科学 第10版、朝倉書店</p> | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | <p>授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。</p> <p>【茅野秀一】 月曜日の17時から18時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 メールアドレス：hidekazu@saitama-med.ac.jp</p> | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気Ⅴ | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 茅野 秀一・加藤木利行・田邊 一郎・辻 美隆・新井 成俊 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、①薬物療法の基礎知識を学ぶ。②外科治療の基本を学ぶ。③循環器疾患の診断と治療に関する普遍的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>【治療】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬物療法に関する基礎的な知識を概説できる。 2) 内科的治療（輸血・輸液、食事療法）について概説できる。 3) 外科的治療に関する基本的な事項を説明できる。 <p>【循環器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環器疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 2) 代表的な循環器疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な循環器疾患の治療と予後について概説できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月03日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | 治療1：薬物療法の基礎1 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 薬物受容体と薬物の作用（薬理作用）の関連を説明できる。 2. 薬物の適用量と生体反応の関係（用量反応関係）を説明できる。 3. 薬効に対する年齢および性別の影響を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月17日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | 治療2：薬物療法の基礎2 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 薬効に対する心理的影響を説明できる。
 2. 代表的な薬物相互作用を説明できる。
 3. 薬物の耐性、依存性について説明できる。
 4. 薬物の吸収、分布、代謝、排泄について説明できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|---|---------|--|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月24日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | 治療3：薬物療法の基礎3 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 自律神経系の役割を説明できる。 2. アドレナリン作動性シナプスとアドレナリン受容体の特徴を説明できる。 3. アドレナリン作用薬の特徴を説明できる。 4. 抗アドレナリン作用薬の特徴を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月31日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | 治療4：薬物療法の基礎4 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. コリン作動性シナプスとアセチルコリン受容体の特徴を説明できる。 2. コリン作用薬の特徴を説明できる。 3. 抗コリン作用薬の特徴を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月07日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻・茅野 | | |
| | テーマ | 治療5：創傷治癒、消毒と滅菌 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 創傷の種類を列挙し、説明できる。 2. 創傷治癒のメカニズムを説明できる。 3. 創傷治癒遅延因子を列挙できる。 4. 消毒と滅菌の違いを説明できる。 5. 各種滅菌法について簡単に説明できる。 6. 消毒法の概要を説明できる。 7. 病棟手洗いについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月14日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 治療6：手術の基本手技 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術時手洗いについて説明できる。 2. 手術器具・機器を列挙し、簡単に説明できる。 3. 縫合・結紮法の概要を説明できる。 4. 切開法・止血法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月21日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 治療7：周術期の管理 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 周術期の患者さんへの対応を説明できる。 2. 手術侵襲とサイトカイン、SIRSの関係を説明できる。 3. 術前リスク評価について説明できる。 4. 術後合併症を列挙できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月28日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 治療8：輸血と輸液、食事・薬物療法 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 輸液療法の種類と意義を簡単に説明し、代表的な輸液製剤を列挙できる。
 2. 輸血療法の種類と意義を簡単に説明し、代表的な輸血製剤を列挙できる。
 3. 輸液・輸血療法において留意すべき事項を説明できる。
 4. 薬物療法の種類と意義を説明できる。
 5. 薬物の投与経路や体内動態を考慮に入れた治療計画の重要性を説明できる。
 6. 薬物療法において留意すべき事項を説明できる。
 7. 生活指導と食事・栄養療法について概説できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|---|----|----|
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月05日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 循環器1: 循環器疾患の診断と治療、虚血性心疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の構造、心周期、刺激伝導系について簡単に説明できる。 2. 心電図、心エコー、心カテーテル、核医学検査などについて簡単に説明できる。 3. 虚血性心疾患の疫学について概説できる。 4. 心筋梗塞および狭心症の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 5. 心筋梗塞および狭心症の治療と予後について概説できる。 6. 虚血性心疾患の予防について概説できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月12日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 循環器2: 不整脈 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 不整脈の種類を挙げ、それぞれの病態について簡単に説明できる。 2. 徐脈性不整脈と頻脈性不整脈について、心電図上の特徴も含めて説明できる。 3. 致死的な不整脈の心電図所見を説明できる。 4. 抗不整脈薬、アブレーション、ペースメーカーなどを用いた各種不整脈の治療法について概説できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月19日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 循環器3: 心不全 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心不全の病態と症候を、右心不全と左心不全に分けて説明できる。 2. 急性心不全と慢性心不全の異同を述べ、それぞれの治療法について簡単に説明できる。 3. 心不全をきたす疾患(心筋疾患、血管疾患、弁疾患など)を列挙し、その概要を説明できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月09日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 循環器4: 弁膜症、心筋・心膜疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心雑音の分類を述べ、その概要を簡単に説明できる。 2. 弁膜症(先天性心疾患を除く)の分類を説明できる。 3. 弁膜症、とくに僧帽弁狭窄症の症候を列挙できる。 4. 弁膜症の治療法と予後について概説できる。 5. 心筋症の分類を述べ、その概要を簡単に説明できる。 6. 心膜疾患の分類を述べ、その概要を簡単に説明できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月14日(水) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 川角キャンパス202 | | |
| | 担当者 | 田邊 | | |
| | テーマ | 循環器5: 血圧の異常、脈管疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 高血圧症の成因について概説できる。 2. 高血圧症の診断基準について簡単に説明できる。 3. 高血圧症をきたす疾患を分類して概説できる。 4. 高血圧症の予防と治療について概説できる。 5. 低血圧症の病態と症候について簡単に説明できる。 6. 大動脈を侵す代表的な疾患を列挙し、その概要を簡単に説明できる。 7. 末梢動脈および静脈を侵す代表的な疾患を列挙し、その概要を簡単に説明できる。 <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月16日(金) | 時限 | 3限 |

| | | | | |
|-------------|--|--|----|----|
| 講義室 | G203 | | | |
| 担当者 | 加藤木 | | | |
| テーマ | 循環器6：循環器疾患の外科的療法1 | | | |
| 授業内容 | 1. 人工心臓の原理と機能について説明できる。 2. 補助心臓について概要を説明できる。 3. 代表的な先天性心疾患を列挙し、その概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月23日(金) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | G203 | | |
| | 担当者 | 加藤木 | | |
| | テーマ | 循環器7：循環器疾患の外科的療法2 | | |
| | 授業内容 | 1. 弁膜症の手術療法について簡単に説明できる。 2. 経皮的冠動脈形成術および冠動脈バイパス術について簡単に説明できる。 3. 大動脈瘤・大動脈解離の病態と症候および治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. ヒトの病気Vの前半部分の試験は12月13日(土)2限に、後半部分の試験は定期試験期間内に行う。(いずれも多肢選択問題) 2. ヒトの病気Vの評価は、2つの試験の成績を平均して判定する。 3. いずれの試験も、出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。 4. 定期試験不合格者には再試験期間中に再試験を行う。 | | | |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 | | | |
| 参考書 | 1. ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂 2. 内科学 第10版、朝倉書店 3. 標準外科学 第12版 医学書院 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【茅野秀一】 月曜日の17時から18時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 メールアドレス：hidekazu@saitama-med.ac.jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 骨・関節疾患総論 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|--------|-------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 宮島 剛 | 医学部教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 宮島 剛 |
| 科目の目標 | 骨・関節疾患を抱える患者に対して質の高い安全な理学療法を行うために、運動器の正常構造と機能を知り、骨関節疾患の病因・病態生理、症候、診断と治療を理解して、患者のかかえる諸問題に対し自ら考えて合理的にアプローチする力を身につける。 |
| 学習の具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 骨、関節の構造、生理、機能について概略を説明できる。 2) 運動器疾患の診察方法を列挙できる。 3) 骨・関節X線写真の正常像を読影できる。 4) 運動器疾患に対する保存療法の長所・短所を説明できる。 5) 運動器疾患に対する手術療法の長所・短所を説明できる。 6) 骨・関節の外傷について、診断・合併症・治療の考え方を説明できる。 7) 軟部組織損傷について病態生理・治療法の概要を説明できる。 8) 代表的四肢・体幹の骨折・脱臼について病態生理・治療法の概要を説明できる。 9) 軟部組織・骨・関節の感染症について特徴・部位・症状・治療法の概略を説明できる。 10) 関節リウマチとその類縁疾患の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 11) 変形性関節症、痛風、偽痛風、四肢循環障害の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 12) 先天性骨系統疾患と先天性奇形の診断の概略を説明できる。 13) 骨腫瘍・軟部腫瘍の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 14) 骨粗鬆症の診断、治療法の概略を説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月15日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 整形外科とは、運動器の基礎科学 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 整形外科が対象とする器官を説明できる。 2. 運動器疾患の疾病構造の変化を説明できる。 3. 骨・関節の構造を説明できる。 4. 骨の発生と成長過程の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月22日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | | | | |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| 担当者 | 宮島 | | | |
| テーマ | 運動器疾患の診察 | | | |
| 授業内容 | 1. 問診事項を列挙できる。 2. 主訴、主症状、性別、年齢の情報から、頻度の高い疾患名を列挙できる。 3. 運動器疾患を評価するためにどうやって現症をとるか、述べるができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月13日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 運動器疾患の検査 | | |
| | 授業内容 | 1. 運動器疾患に対する検査を列挙できる。 2. X線写真の特徴を説明できる。 3. 主要部位の正常X線写真を読影して、解剖学的説明ができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月20日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 運動器疾患の保存療法 | | |
| | 授業内容 | 1. 保存療法の長所と短所を説明できる。 2. 保存療法の具体的方法を列挙し、その特徴を述べるができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月27日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 運動器疾患の手術療法 | | |
| | 授業内容 | 1. 手術療法の長所と短所を説明できる。 2. 手術療法の具体的方法を列挙し、その特徴を述べるができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月03日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 外傷総論 | | |
| | 授業内容 | 1. 外傷の診断・治療の概略について説明できる。 2. 骨折・脱臼の概略について説明できる。 3. 軟部組織損傷の概略について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月10日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 上肢の骨折・脱臼 1 | | |
| | 授業内容 | 1. 主な上肢の骨折・脱臼について病態生理を説明できる。 2. 主な上肢の骨折・脱臼についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月17日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 上肢の骨折・脱臼 2 | | |
| | 授業内容 | 1. 主な上肢の骨折について病態生理を説明できる。 2. 主な上肢の骨折についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月24日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| テーマ | 下肢の骨折・脱臼 1 | | | |
| 授業内容 | 1. 主な下肢の骨折について病態生理を説明できる。 2. 主な下肢の骨折についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月27日(金) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 日高キャンパス・C302 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 下肢の骨折・脱臼 2 | | |
| | 授業内容 | 1. 主な下肢の骨折について病態生理を説明できる。 2. 主な下肢の骨折についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月01日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 軟部組織外傷 | | |
| | 授業内容 | 1. 主な軟部組織外傷について病態生理を説明できる。 2. 主な軟部組織外傷についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月08日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 悪性腫瘍、良性腫瘍、腫瘍類似疾患 | | |
| | 授業内容 | 1. 腫瘍性病変の一般的特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 2. 悪性腫瘍治療のリハビリテーションについて、特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月15日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 感染症 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な感染症の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 2. 感染症に対するリハビリテーションの概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月22日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 関節リウマチ | | |
| | 授業内容 | 1. 関節リウマチの診断と治療について、概要を説明できる。 2. 関節リウマチのリハビリテーションについての概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月29日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 骨粗鬆症 | | |
| | 授業内容 | 骨粗鬆症と骨軟化症、くる病について、その違いを含めて説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 前期定期試験の成績で評価する。再試験あり。 | | | |
| 教科書 | 標準整形外科学 第15版 井樋栄二ほか編集 医学書院出版 | | | |
| 参考書 | 指定なし | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 講義時間帯は中途でも随時質問して可。自分が疑問に思うことは他の学生も疑問に思っていることが多いので、その場で解決できて有益。 講義の前後の時間帯も対応可能。 | | | |

履修上の注意、履修要件

授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 骨・関節疾患各論 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|--------|-------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 宮島 剛 | 医学部教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 宮島 剛 |
| 科目の目標 | 骨・関節疾患を抱える患者に対して質の高い安全な理学療法を行うために、運動器の正常構造と機能を知り、骨関節疾患の病因・病態生理、症候、診断と治療を理解して、患者のかかえる諸問題に対し自ら考えて合理的にアプローチする力を身につける。 |
| 学習の具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 肩関節と肘関節疾患の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 2) 手関節と手疾患の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 3) 頸椎疾患の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 4) 胸椎・腰椎疾患の診断の概略を説明でき、あわせて治療について説明できる。 5) 代表的股関節疾患について病態生理・治療法の概要を説明できる。 6) 代表的膝関節疾患について病態生理・治療法の概要を説明できる。 7) 代表的足関節と足疾患について病態生理・治療法の概要を説明できる。 8) 脊髄損傷について病態生理・治療法の概要を説明できる。 9) 末梢神経損傷の代表的疾患について病態生理・治療法の概要を説明できる。 10) 代表的スポーツ外傷と障害について種目別・部位別の特徴を説明できる。 11) 運動器リハビリテーションの適応と禁忌事項を説明できる。 12) 主な整形外科疾患手術の概要について説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月30日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 肩関節 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な肩関節疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月07日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 肘関節 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な肘関節疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月14日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 手関節と手 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な手関節疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 2. 代表的な手指疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月21日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 頸椎 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な頸椎疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月28日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 胸椎・胸郭 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な胸椎・胸郭疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月04日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 腰椎 | | |
| | 授業内容 | 1. 代表的な腰椎疾患の特徴・臨床症状・治療法の概略を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月11日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 股関節 | | |
| | 授業内容 | 1. 正常な股関節の構造と機能を説明できる。 2. 代表的股関節疾患について病態生理を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月18日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 膝関節 1 | | |
| | 授業内容 | 1. 正常な膝関節の構造と機能を説明できる。 2. 代表的膝関節疾患について、診断、治療とリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月25日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 膝関節 2 | | |
| | 授業内容 | 1. 正常な膝関節の構造と機能を説明できる。 2. 代表的膝関節疾患について、診断、治療とリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月02日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 足関節と足 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 代表的足関節疾患・足趾疾患について病態生理を説明できる。
2. 代表的足関節・足趾疾患についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。
(予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|-------------|---|--|----|----|
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月09日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 脊椎・脊髄損傷 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 頸髄損傷について病態生理を説明できる。 2. 頸髄損傷についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 3. 代表的胸髄損傷・腰髄損傷について病態生理を説明できる。 4. 代表的胸髄損傷・腰髄損傷についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月16日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 末梢神経損傷 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 末梢神経損傷の代表的疾患について病態生理を説明できる。 2. 末梢神経損傷の代表的疾患についてリハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月23日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | スポーツ整形外科 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表的なスポーツ外傷と障害について、種目別・部位別の視点から説明できる。 2. 代表的なスポーツ外傷と障害について、リハビリテーションを含め治療法の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月06日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | スポーツ生理学 | | |
| | 授業内容 | スポーツ活動時の身体の機能と働きについて、生理的・栄養学的・病理学的観点での理解を深める。 スポーツ活動の指導に必要な知識を習得する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月13日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 宮島 | | |
| | テーマ | 総括 | | |
| | 授業内容 | 総括、手術ビデオ供覧 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 後定期試験の成績で評価する。再試験あり。 | | | |
| 教科書 | 標準整形外科学 第15版 井樋栄二ほか編集 医学書院出版 | | | |
| 参考書 | 指定なし | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 講義時間帯は中途でも随時質問して可。自分が疑問に思うことは他の学生も疑問に思っていることが多いので、その場で解決できて有益。 講義の前後の時間帯も対応可能。 | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | ヒトの病気VI | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 茅野 秀一 | 臨床検査学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 茅野 秀一・加藤木利行・辻 美隆・嶋崎 晴雄・朝倉 博孝・長谷川 元・石田 明・清水 泰輔・深谷 大地 |
| 科目の目標 | 将来、医療人として患者さんや家族のケアにあたるため、診療に関する基本的な事項を理解し、呼吸器、腎・尿路、血液系の疾患に関する基本的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>【総論】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 診療録と根拠に基づく医療について概説できる。 2) 移植医療に関する基本的な事項を説明できる。 <p>【呼吸器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 呼吸器疾患を分類し、それぞれの病因・病態について概説できる。 2) 代表的な呼吸器疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な呼吸器疾患の治療と予後について概説できる。 <p>【血液系疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 血液疾患を分類し、それぞれの病因・病態の概要を説明できる。 2) 代表的な血液疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な血液疾患の治療と予後について概説できる。 <p>【腎・尿路・生殖器疾患】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 腎・尿路・生殖器疾患を分類し、それぞれの病因・病態について概説できる。 2) 代表的な腎・尿路疾患の発症様式と症候、診断の要点を説明できる。 3) 代表的な腎・尿路疾患の治療と予後について概説できる。 4) 代表的な男性生殖器疾患の診断と治療について概説できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月03日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 茅野 | | |
| | テーマ | 総論1：診療録と根拠に基づいた医療、インフォームドコンセント | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 診療録、とくに問題指向型診療記録の意義とその概要を説明できる。 2. “根拠に基づいた医療”の概念を簡単に説明できる。 3. インフォームドコンセントについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|---|---------|---|----|----|
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月10日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 加藤木 | | |
| | テーマ | 総論2：移植医療 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 移植の種類について概要を説明できる。 2. 植物状態、脳死、心臓死について説明できる。 3. 臓器移植の種類について説明できる。 4. ドナーの種類・条件について概要を説明できる。 5. 拒絶反応の概要を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月17日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 呼吸器1：呼吸器疾患の診断と治療、胸膜・縦隔疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺や気管支の解剖が説明でき、肺機能検査、血液ガスの正常値や簡単な解釈が出来る。 2. 喀痰検査、胸部X線、CT、気管支鏡検査などの呼吸器診断法について概説できる。 3. 胸膜・縦隔を侵す代表的な疾患を列挙し、その概要を簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月24日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 呼吸器2：肺腫瘍 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺癌や肺の良性腫瘍の分類を説明できる。 2. 肺癌や肺の良性腫瘍の症候を列挙できる。 3. 肺癌や肺の良性腫瘍の検査所見を説明できる。 4. 肺癌や肺の良性腫瘍の治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月31日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 呼吸器3：慢性閉塞性肺疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性閉塞性肺疾患（COPD）の分類を説明できる。 2. COPDの症候を列挙できる。 3. COPDの検査所見、とくに肺機能検査の特徴について説明できる。 4. COPDの治療法と予後について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月07日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 嶋崎 | | |
| | テーマ | 呼吸器4：間質性肺疾患、肺感染症、急性呼吸促迫症候群、サルコイドーシスなど | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 間質性肺炎について概説できる。 2. 肺感染症（細菌性・ウイルス性など）の種類と症候について述べる事が出来る。 3. 肺感染症の検査所見と治療について簡単に説明できる。 4. 急性呼吸促迫症候群、サルコイドーシスについて概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月14日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 辻 | | |
| | テーマ | 呼吸器5：呼吸器疾患の外科的療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 肺癌の手術療法について簡単に説明できる。 2. 縦隔腫瘍の手術療法の概要を説明できる。 3. 肺結核の手術療法の概要を説明できる。 4. 自然気胸の病態と症候および治療について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月21日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| 担当者 | 石田 | | | |
| テーマ | 血液1：血液細胞と造血、造血障害の病態生理、貧血疾患 | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 血液細胞の種類と役割を説明できる 造血のしくみについて簡単に説明できる 血球計算と骨髄検査を説明できる 白血球異常、脾腫、リンパ節腫脹をきたす疾患を説明できる 貧血の病態について簡単に説明できる 主な貧血疾患を列挙して、その症候と治療の概略を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月28日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 石田 | | |
| | テーマ | 血液2：造血器腫瘍、化学療法、造血幹細胞移植、輸血療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 主要な造血器腫瘍を列挙して、その症候と治療の概略を説明できる 化学療法とその合併症の要点を説明できる 造血幹細胞移植の要点を説明できる 輸血製剤の種類と特徴、輸血療法の要点を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月05日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 石田 | | |
| | テーマ | 血液3：止血・凝固・線溶、出血性疾患の病態生理、出血性疾患 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 止血・凝固・線溶のしくみについて簡単に説明できる 出血性疾患の病態について簡単に説明できる 主な出血性疾患を列挙して、その症候と治療の概略を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月12日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 長谷川 | | |
| | テーマ | 腎・尿路1：腎・尿路系疾患の診断と治療 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 腎・尿路系の構造と機能を簡単に説明できる。 腎・尿路系疾患の症候と検査について簡単に説明できる。 腎疾患の特徴について簡単に説明できる。 腎疾患の長期管理・治療などについて簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月19日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 深谷 | | |
| | テーマ | 腎・尿路2：腎不全と腎置換療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 急性腎不全の原因を列挙し、その病態と治療などについて簡単に説明できる 慢性腎不全の原因を列挙し、その病態と治療などについて簡単に説明できる。 腎置換療法の種類と特徴などについて簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月09日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 清水 | | |
| | テーマ | 腎・尿路3：血液浄化療法の実際 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 血液浄化に必要なシステムについて簡単に説明できる。 血液浄化施行中の注意点について簡単に説明できる。 継続的に血液浄化療法を受ける患者への対応について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月16日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 深谷 | | |
| | テーマ | 腎・尿路4：糸球体腎炎、ネフローゼ症候群など | | |
| | 授業内容 | | | |

| | | | | |
|--|---|--|----|----|
| 1. 糸球体腎炎の病態と管理などについて簡単に説明できる。 2. ネフローゼ症候群の病態と原疾患などについて簡単に説明できる。 3. 尿路結石の病態と症候、治療などについて簡単に説明できる。 4. 尿路感染症の病態と症候、治療などについて簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月23日(金) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | C401 | | |
| | 担当者 | 朝倉 | | |
| | テーマ | 腎・尿路5：腎・尿路系の腫瘍、前立腺疾患 | | |
| | 授業内容 | 1. 腎細胞癌、膀胱癌と前立腺癌の病態を説明できる。 2. 前立腺癌と前立腺肥大症の鑑別を説明できる。 3. 膀胱全摘術後の尿路変更術を列挙できる。 4. 前立腺特異抗原 (PSA) について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. ヒトの病気VIの試験は定期試験期間内に行う。(いずれも多肢選択問題) 2. 出席不良の場合には受験資格を失い、自動的に科目不合格となるので注意すること。 3. 定期試験不合格者には再試験期間中に再試験を行う。 | | | |
| 教科書 | なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 | | | |
| 参考書 | 1. 内科学 第10版、朝倉書店 2. 標準外科学 第12版 医学書院 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【茅野秀一】 月曜日の17時から18時 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 メールアドレス：hidekazu@saitama-med.ac.jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。 | | | |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 精神疾患 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 5限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|-------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 松岡 孝裕 | 医学部教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 松岡 孝裕・新井 久稔・上村 永・清水 直樹・谷木 夏妃・原田 舟 |
| 科目の目標 | 各種精神疾患の症状や治療法を学び、精神疾患を有する患者についての理解を深める。 |
| 学習の具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 診 断：精神医学的症候と状態像を列挙し、説明できる。 2) 疾 病：精神科疾患をカテゴリーごとに列挙し、説明できる。 3) 治 療：各疾患ごとに、薬物療法・精神療法等の精神科治療法について説明できる。 4) 特殊領域：精神保健福祉法、精神科リハビリテーション(福祉/職業リハビリテーション)、リエゾン精神医学、心身医学、ライフサイクルにおける精神医学等について簡単に説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月17日(木) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 松岡 | | |
| | テーマ | 精神医学総論（症候と状態像他） | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患の症候を列挙できる。 2. 精神疾患の状態像を説明できる。 3. 精神疾患の分類を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月08日(木) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 松岡 | | |
| | テーマ | 精神作用物質による精神及び行動の障害 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神作用物質による疾患を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月13日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 担当者 | 新井 | | | |
| テーマ | 器質性精神障害（症状性を含む） | | | |
| 授業内容 | 1. 器質性精神障害に含まれる疾患を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | | |
| 4 | 年月日（曜日） | 令和 7年05月15日（木） | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 松岡 | | |
| | テーマ | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | |
| | 授業内容 | 1. 生理的障害および身体的要因に関連した疾患を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 5 | 年月日（曜日） | 令和 7年05月20日（火） | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 原田 | | |
| | テーマ | 統合失調症 | | |
| | 授業内容 | 1. 統合失調症の類型を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 6 | 年月日（曜日） | 令和 7年05月22日（木） | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 松岡 | | |
| | テーマ | 精神保健福祉法、福祉・職業リハビリテーション | | |
| | 授業内容 | 1. 精神保健福祉法に規定される各種機関の役割を説明できる。 2. 精神保健指定医と各種入院形態について説明できる。 3. 福祉・職業リハビリテーションのための施設・事業について説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 7 | 年月日（曜日） | 令和 7年05月27日（火） | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 原田 | | |
| | テーマ | 分裂病型障害および妄想性障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 分裂病型障害および妄想性障害に含まれる疾患を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 8 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月03日（火） | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 上村 | | |
| | テーマ | 気分障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 気分障害の類型を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 9 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月10日（火） | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 上村 | | |
| | テーマ | 気分障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 気分障害の類型を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 10 | 年月日（曜日） | 令和 7年06月17日（火） | 時限 | 5限 |

| | | | | |
|-------------|--|--|----|----|
| 講義室 | 202 | | | |
| 担当者 | 清水 | | | |
| テーマ | 神経症性障害 ストレス関連障害および身体表現性障害 | | | |
| 授業内容 | 1. 神経症性障害 ストレス関連障害および身体表現性障害に含まれる疾患を列挙できる。 2. 各疾患の症状を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月24日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 清水 | | |
| | テーマ | 成人の人格および行動の障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 成人の人格および行動の障害の類型を列挙できる。 2. 各障害の症状を列挙できる。 3. 各障害の治療法や接し方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月01日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 谷木 | | |
| | テーマ | 精神遅滞、心理的発達の障害 | | |
| | 授業内容 | 1. 心理的発達の障害に含まれる疾患を列挙できる。 2. 各疾患の特徴を列挙できる。 3. 各疾患の治療法や接し方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月08日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 谷木 | | |
| | テーマ | てんかん | | |
| | 授業内容 | 1. てんかんの分類を列挙できる。 2. 各症候群、発作の特徴を列挙できる。 3. てんかんの治療法や接し方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月15日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | リエゾン精神医学、心身医学 | | |
| | 授業内容 | 1. リエゾン精神医学について簡単に説明できる。 2. 心身医学について簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月22日(火) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | ライフサイクルにおける精神医学 精神科リハビリテーション | | |
| | 授業内容 | 1. ライフサイクルにおける精神医学について簡単に説明できる。 2. 精神科リハビリテーションについて簡単に説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. 定期試験(多肢選択式+論述式)の成績で評価する。再試験:有。 | | | |
| 教科書 | 1. 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版、監修:奈良 勲・鎌倉矩子、編集:上野武治、医学書院 | | | |
| 参考書 | 1. 標準精神医学 第9版 監修:尾崎 紀夫・三村 将、編集:水野雅文・村井俊哉・明智龍男 編、医学書院 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【松岡 孝裕】 随時、質問はメールにて受け付ける。 E-mail: tmatsu@saitama-med.ac.jp ※ただし、返信は後刻になります。 | | | |

履修上の注意、履修要件

授業前日には教科書の該当ページを予習し、放課後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めることを心掛けてください。

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 医療の基本 I | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 1 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 水曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 1単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| | | |
|------|---------|----------|
| 担当教員 | | |
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 医師 | ◎ 池田 将樹 | 共通教育部門教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 池田 将樹・田邊 一郎・是村 利幸・師岡 祐輔・姉帯 沙織・飛田 和基 |
| 科目の目標 | 豊かな人間性と社会性を備え、患者さんの視点で痛みや苦しみをとらえられる医療人となるために、医学や医療の抱える様々な倫理的問題を、自ら考え、理解するとともに、よくある症候の病態やそれに伴う生活上の変化などに関する基本的な知識を修得する。 |
| 学習の具体的な目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 医学・医療に関連する倫理的問題を分類し、概説できる。 2) ジュネーブ宣言、医の倫理の国際綱領、医学研究と動物実験、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、インフォームド・コンセント、ターミナルケア、尊厳死と安楽死、緩和医療について説明できる。 3) 移植医療、再生医療、生殖医療、妊娠中絶、性転換医療、出生前診断、出生前胎児医療、遠隔医療の利点と欠点を列挙し、これらの先端医療・技術に関する自分の考えを述べることができる。 4) 頭痛、めまい、息切れ（呼吸困難）、意識障害、ショック、けいれん、腹痛、胸痛、悪心・嘔吐、排尿障害について、患者さんの実際の訴えや日常生活に及ぼす影響を説明できる。 5) これらの症状の病態や原因となる疾患について簡単に説明できる。 <p>各主題について、グループワークののちプレゼンテーションを行いお互いに評価する。</p> |

| | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 授業計画表 | | | | |
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月16日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理1：オリエンテーション | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医の倫理（医療倫理）、臨床倫理、医学研究の倫理および生命倫理の名称を整理し、各々のカテゴリで探求される様々な項目について概説する。 2. ヒポクラテスの誓いとジュネーブ宣言とを対比して、医療人に求められる態度・行動規範について考える。 3. 見やすい発表用資料、ハンドアウト（配布用資料）の作成について解説する。（予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月23日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理2：情報収集 | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 授業内容 | <p>1. 学生を8グループに分ける。</p> <p>2. 医の倫理の国際綱領、医学研究と動物実験、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、インフォームド・コンセント、ターミナルケア、尊厳死と安楽死、緩和医療についてグループごとに担当し、その背景、内容とその意味、現時点での問題点などについて情報収集と整理・分析を行う。</p> <p>3. すべての学生は、8つの各テーマについてWORDファイルにそれぞれ100字以内でまとめ、4月25日（金）までに、メール(m_ikeda@saitama-med.ac.jp)あるいはWebClassで池田将樹宛に送ること（提出は必須。出席確認にする場合がある）。（予習時間30分、復習時間30分）</p> | | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月30日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理3：資料作成 | | |
| | 授業内容 | <p>1. 得られた情報を整理統合して、配布用のハンドアウト(WORDファイル、A4サイズ2枚)を作成する。</p> <p>2. ハンドアウトをもとに、発表用資料をパワーポイントで作成する。</p> <p>*5月2日(金)までには、池田宛てにメールまたはWebClassに添付して提出する。</p> <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月07日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理4：発表1 | | |
| | 授業内容 | <p>1. ハンドアウトの配布</p> <p>2. テーマとした8課題中の4課題について、各グループ8分の持ち時間で発表し、全体討論を通じてこれらの問題に対する理解を深める。</p> <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月14日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202・PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理5：発表2 | | |
| | 授業内容 | <p>1. 残りの課題について、同様に発表、討論を行う。</p> <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月21日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理6：情報収集 | | |
| | 授業内容 | <p>1. 学生を8グループに分ける。</p> <p>2. 移植医療、再生医療、生殖医療、妊娠中絶、性転換医療、出生前診断、出生口胎児医療、遠隔医療について、グループごとに、その背景、内容とその意味、現時点での問題点などについて情報収集と整理・分析を行う。</p> <p>3. すべての学生は、8つの各テーマについて、WORDファイルにそれぞれ100字以内でまとめ、5月23日（金）までに、メール(m_ikeda@saitama-med.ac.jp)あるいはWebClassで池田将樹宛に送ること（提出は必須。出席確認にする場合がある）。（予習時間30分、復習時間30分）</p> | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月28日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理7：資料作成 | | |
| | 授業内容 | <p>1. 得られた情報を整理統合して、配布用のハンドアウトを作成する(WORDファイル、A4サイズ2枚)。</p> <p>2. ハンドアウトをもとに、発表用資料をパワーポイントで作成を開始する。</p> <p>* 5月30日(金)までに、ハンドアウトを池田宛てに提出する。</p> <p>3. 発表用パワーポイントを6月3日(火)までに池田宛てに提出する。</p> <p>(予習時間30分、復習時間30分)</p> | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月04日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理8：発表1 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. ハンドアウトの配布
 2. テーマとした8課題中の3課題（4グループ）について、各グループ15分の持ち時間で発表し、全体討論を通じてこれらの問題に対する理解を深める。
 （予習時間30分、復習時間30分）

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月11日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 医の倫理9：発表2 | | |
| | 授業内容 | 1. 残りの4課題（4グループ）について、同様に発表、討論を行う。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月18日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 診療の基本1：情報収集 | | |
| | 授業内容 | 1. 学生を10グループに分ける。 2. 頭痛、めまい、息切れ（呼吸困難）、意識障害、ショック、けいれん、腹痛、胸痛、悪心・嘔吐、排尿障害について分担して担当し、実際にはどのような内容の訴えなのか、この症状によって日常生活にどのような不都合が生じるのか、どのような機序で起こるのか（どこで何が起きているのか）、どのような病気が原因となるのかなどについて、情報収集と整理・分析を行う。 3. すべての学生は、8つの各テーマについて、WORDファイルにそれぞれ100字以内でまとめ、6月13日（金）までに、メール（m_ikeda@saitama-med.ac.jp）あるいはWebClassで池田将樹宛に送ること（提出は必須。出席確認にすることがある）。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月25日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | PC教室 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 診療の基本2：資料作成 | | |
| | 授業内容 | 1. 得られた情報を整理統合して、配布用のハンドアウトを作成する。 2. ハンドアウトをもとに、発表用資料を作成する。 * 6月27日（金）までにハンドアウトのWORDファイルを池田宛てに提出すること。 3. ハンドアウトをもとに、発表用資料をパワーポイントで作成開始する。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月02日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 診療の基本3：発表1 | | |
| | 授業内容 | 1. 第1日目は、10の症状のうちの3つについて、各グループ15分ずつの持ち時間で発表し、質疑応答を行う。 2. テュータが補足的な説明を行う。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月09日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 診療の基本4：発表2 | | |
| | 授業内容 | 1. 同様に発表と討論、補足説明を行う。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月16日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 診療の基本5：発表3 | | |
| | 授業内容 | 1. 同様に発表と討論、補足説明を行う。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月23日(水) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 池田・田邊・是村・師岡・姉帯・飛田 | | |

| | |
|-------------|--|
| テーマ | 診療の基本5：各テーマの補足 |
| 授業内容 | 1. 各テーマの補足説明を行なう。 (予習時間30分、復習時間30分) |
| 評価方法 | 期末試験（MCQ）の成績、出席状況、受講態度、課題の作成・発表状況などをもって、総合的に評価する。 なお、授業回数の4/5以上に出席しなければ不合格となる。（遅刻は0.5回相当） 再試験：なし |
| 教科書 | 1. なるほどなっとく内科学 浅野嘉延 編 南山堂 2. プリント配布 |
| 参考書 | なし |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【池田 将樹】 水曜日の12時10分から13時10分 上記時間帯での訪問が難しい場合は、事前にメールにてアポイントメントをとること。 メールによる質問等は随時受け付けます。 メールアドレス：m_ikeda@saitama-med.ac.jp |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日にはシラバスの該当部分を確認し、記載されたテーマについて図書館やインターネットで予習、また授業後には自ら調べた資料の整理・分析、発表用資料の構成検討、発表の練習などを怠らないこと。 |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 臨床心理学演習 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 1 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 金曜日 | 代表時限 | 4限 |
| 校地 | 日高キャンパス | | |
| 単位数 | 1単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|------|---------|-------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 指定なし | ◎ 庄野 伸幸 | 医学部教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 庄野 伸幸 |
| 科目の目標 | 臨床心理学を学習することで、学生自身が自己を理解し、患者さんの心理を理解することができる。そこから患者さんへの接し方を考え、さらには職場での同僚や他職種との人間関係をよりよく築くための手助けともなる。 将来、患者さんと上手なコミュニケーションがとれる理学療法士を目指す。 |
| 学習の具体的な目標 | 1) 自分自身の心理状態を知り、説明できる。 2) 他者の心理状態をおしほかり、説明できる。 3) 心理検査について説明ができる。 4) ノンバーバルコミュニケーション（非言語的な心理療法）について説明できる。 5) 言葉のやりとりを基本とする心理療法について説明ができる。 6) 心理療法、特にブリーフセラピの技法について説明できる。 また、授業内でグループワークを行う。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月03日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 臨床心理学とは | | |
| | 授業内容 | 1. 臨床心理学の概要について説明できる。 2. 理学療法士が臨床心理学を学ぶことの利点を説明できる。 3. 自分自身に臨床心理学がどの程度必要かを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月17日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 知覚の心理について 自分を知る① | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 知覚の仕組みについて説明できる。
 2. パターン認知について、ヒューマンエラーと関連づけて説明できる。
 3. 自分自身のものごとのとらえ方について説明できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|---|---------|--|----|----|
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月24日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 適応・欲求の心理について 自分を知る② | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. マズローの欲求段階説について説明ができる。 2. 自分自身がどのような欲求が満たされ、どのような欲求が満たされていないかについて説明できる。 3. 自分自身は現在どの程度、適応しているかについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月24日(金) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理検査Ⅰ(能力検査)の体験 自分を知る③ | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 能力検査にはどのようなものがあるか説明できる。 2. 「頭がいい」とはどういうことかを説明できる。 3. 能力検査を受ける人の心理状態を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月31日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理検査Ⅱ(性格検査)の体験 自分を知る④ | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 性格検査にはどのようなものがあるか説明できる。 2. 性格とはなにかについて説明できる。 3. 自分自身の性格について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月07日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 患者さんの心理について 他者を知る | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者さんの心理状態について説明できる。 2. グループで自己の患者体験を語り、患者さんの心理状態を説明できる。 3. 患者さんと接する上での注意点を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月14日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 医療スタッフの心理について 自分を知る⑤ | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療スタッフ側の心理状態について説明できる。 2. 自分自身のストレス発散法について説明できる。 3. これまでの演習で自分自身をどこまで理解できたかを振り返り、自分について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月21日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅰ 心理療法とは(カウンセリング概論) | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理療法について説明できる。 2. 話を聴くことの意味を説明できる。 3. 話を聴く側の態度と患者さんとの関係性を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月28日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| テーマ | 心理療法Ⅱ ノンバーバルコミュニケーションの体験 | | | |
| 授業内容 | 1. ノンバーバルコミュニケーションについて説明できる。 2. 言葉を介さない状態でどのように感情が伝わるかについて説明できる。 3. 自分自身が非言語的に発しているメッセージや感情について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月05日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅲ 絵画療法の体験 | | |
| | 授業内容 | 1. 絵画療法について説明ができる。 2. 絵画から読み取れる感情について説明できる。 3. グループで絵を描くことによる感情の動きについて考える。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月12日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅳ 回想法の体験 | | |
| | 授業内容 | 1. 回想法について説明できる。 2. 思い出を語ることの意味を説明できる。 3. 高齢者や認知症の患者さんとの接し方を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月19日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅴ ブリーフセラピーの技法を学ぶ① | | |
| | 授業内容 | 1. グループに分かれ、患者さんの役割を体験する。 2. 患者さんと医療スタッフのやりとりのシナリオを提示し、ロールプレイを行う。 3. この作業を通じて、患者さんと上手なコミュニケーションをとる方法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月09日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅵ ブリーフセラピーの技法を学ぶ② | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月16日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | 心理療法Ⅶ ブリーフセラピーの技法を学ぶ③ | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月23日(金) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | C203 | | |
| | 担当者 | 庄野 | | |
| | テーマ | まとめ | | |
| | 授業内容 | 14回の演習を行って、今後、理学療法士となる上で、どのようなことが学べたかを説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. 出席状況、受講態度(積極性)、課題やレポートの提出状況などをもって、総合的に評価する。課題・レポート提出に際しては、返却時に個別にコメントを添え、全体には講評を行う。 2. この科目は演習であり、1/5以上欠席した場合には自動的に不合格になるので注意すること。 3. 不合格の場合でも、再試験は行わない。 | | | |
| 教科書 | プリント教材を適宜配布する。 | | | |
| 参考書 | 各授業で提示する。 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 授業後に教室で質問を受ける。 | | | |

| | |
|-------------|--|
| | もしくは随時メールにて相談を受ける。 E-mail : shono@saitama-med.ac.jp |
| 履修上の注意、履修要件 | シラバスの内容から、可能な範囲で予習を行い、配付資料と講義内容をあわせ、特に復習に重点を置くこと。 |

| | | | |
|--------|-----------------------------|------|-------|
| 講義名 | 保健医療福祉学 | | |
| (副題) | 専門基礎分野（保健医療福祉とリハビリテーションの理念） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 | 代表時限 | 2限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 森田 泰裕 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 森田 泰裕・高倉 保幸・新井 智之・國澤 洋介・金井 欣秀・小関 要作・三浦 佳代・師岡 祐輔・大久保 雄・丸谷 康平 |
| 科目の目標 | リハビリテーションは種々の職種がチームを作り、緊密なチームワークによって、統一した方針のもとに、対象者のリハビリテーションに当たるべきものである。本科目では、チームアプローチにおける理学療法士の役割と、他職種との関係について学ぶことにより、チームアプローチの重要性について理解することができることを目標とする。 また、医療・保健・福祉の各分野で働く専門職種についての特徴を学び、理学療法士との関わりを理解するとともに理学療法士の専門性について考えられるようになることを目標とする。 |
| 学習の具体的な目標 | 講義とグループワークを通して以下の学習目標を修得する。 1) チームワークの重要性を説明できる。 2) チームカンファレンスを実施できる。 3) チームカンファレンス等においてリーダーシップや周囲に合わせた行動がとれる。 4) 各病期における病院や施設のチームについて説明できる。 5) 各病期における病院や施設での他職種の役割について説明できる。 6) 各病期における病院や施設での理学療法士の役割について説明できる。 7) 地域での保健医療および福祉に関わる職種について説明できる。 8) 地域の保健医療福祉における理学療法士の役割について説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月14日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 概論 | | |
| | 授業内容 | 1. 授業予定および授業ルールの説明を行う。 2. チームの重要性や理想のチームについて述べることができる。 (予習時間5分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月21日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 高倉・小関・師岡 | | |
| | テーマ | チームカンファレンス | | |

| | | | | |
|------|--|--|----|----|
| 授業内容 | 1. チーム医療の各形式の特徴を説明できる。 2. 超職種型チーム医療を意識したカンファレンスを実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月28日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ：急性期 | | |
| | 授業内容 | 1. 急性期の医療に関わる職種について説明できる。 2. 急性期のリハビリテーションにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月12日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ：回復期 | | |
| | 授業内容 | 1. 回復期の医療に関わる職種について説明できる。 2. 回復期のリハビリテーションにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月19日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 丸谷・森田 | | |
| | テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ：生活期(維持期) | | |
| | 授業内容 | 1. 生活期の医療に関わる職種について説明できる。 2. 生活期のリハビリテーションにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月26日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 國澤 | | |
| | テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ：終末期 | | |
| | 授業内容 | 1. 終末期の医療に関わる職種について説明できる。 2. 終末期のリハビリテーションにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月02日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 金井 | | |
| | テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ：小児医療 | | |
| | 授業内容 | 1. 小児医療に関わる職種について説明できる。 2. 小児医療のリハビリテーションにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月09日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 丸谷・森田 | | |
| | テーマ | 地域におけるチームアプローチ：障害福祉 | | |
| | 授業内容 | 1. 障害福祉に関わる職種や機関について説明できる。 2. 障害福祉におけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月16日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 丸谷・森田 | | |
| | テーマ | 地域におけるチームアプローチ：健康増進・介護予防 | | |
| | 授業内容 | 1. 健康増進・介護予防に関わる職種や機関について説明できる。 2. 健康増進・介護予防におけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月23日(月) | 時限 | 2限 |

| | | | | |
|-------------|--|---|----|----|
| 講義室 | 301 | | | |
| 担当者 | 大久保 | | | |
| テーマ | 病院・施設におけるチームアプローチ： スポーツ・クリニック | | | |
| 授業内容 | 1. スポーツ現場やクリニックに関わる職種について説明できる。 2. スポーツ現場やクリニックにおけるチームアプローチについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月30日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月07日(月) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | ICFとリハビリテーション実施計画書 | | |
| | 授業内容 | 1. ICFについて説明できる。 2. リハビリテーション実施計画書について説明できる。 3. ICFおよびリハビリテーション実施計画書から他職種情報の重要性を考え、他職種から必要な情報を取得できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月07日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月14日(月) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 紙上患者に対するチームアプローチ：討議 | | |
| | 授業内容 | 1. 紙上の模擬患者に対するチームアプローチについて討議し、発表する 2. 討議の中で自身の意見を述べるができる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月14日(月) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 紙上患者に対するチームアプローチ：発表 | | |
| | 授業内容 | 1. 他者にグループの考えがわかりやすく説明ができる 2. 他のグループの発表に対し積極的に討議に参加できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. 定期試験期間中の筆記試験は実施しない。 2. 出席状況、授業態度、グループワークへの参加、レポート、発表および小テストの内容を総合的に判断して評価する。 | | | |
| 教科書 | 資料は随時配布する。 | | | |
| 参考書 | 1. 「チーム医療」とは何か 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ、細田満和子 著、日本看護協会出版会 2. 保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践、日本保健福祉学会 編集、北大路書房 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 森田泰裕 月曜 4 限目 上記時間での訪問が難しい場合はメールにアポイントメントをとること moritay@saitama-med.ac.jp | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 必要事項について事前調査や予習を行うことが望ましい。授業時間内に限らずレポートや発表の準備や討議をグループで行い、発表内容等を深めること。 | | | |

グループワークに積極的に参加すること。レポートは指定された期間内に指定された場所に提出すること。放課後や余暇を利用して学習内容の見直しや、図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めること。

| | | | |
|--------|----------------|------|-------|
| 講義名 | 理学療法評価学 I | | |
| (副題) | 専門分野 (理学療法評価学) | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 60.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/60時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 森田 泰裕 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 森田 泰裕・新井 智之・大久保 雄・師岡 祐輔・三浦 佳代・清水 夏生・甘利 貴志・神林 宏汰・久喜 啓誉・山崎雄一郎・西元 淳司 |
| 科目の目標 | 理学療法を実施する上では、対象者の身体の運動に関わる関節・筋・神経系の機能を評価することは、すべての理学療法の基礎となる。本科目では関節可動域、筋力（MMTなど）、反射・感覚評価の意義と評価方法の習得を目指す。 |
| 学習の具体的な目標 | 講義、実技演習、グループワーク、ディスカッションを通して、以下の学習目標を修得する。 1) 反射および体性感覚検査について理解し実施できる。 2) 関節可動域測定について理解し実施できる。 3) 臨床的筋力測定について理解し実施できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月14日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 師岡・清水・三浦・森田・甘利 | | |
| | テーマ | 反射検査 | | |
| | 授業内容 | 1. 腱反射、表在反射、病的反射の概要を説明できる。 2. 反射検査の意味について説明できる。 3. 反射検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月14日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 師岡・清水・三浦・森田・甘利 | | |
| | テーマ | 反射検査 | | |
| | 授業内容 | 1. 腱反射、表在反射、病的反射の概要を説明できる。 2. 反射検査の意味について説明できる。 3. 反射検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月21日(月) | 時限 | 3限 |
| | | | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 講義室 | 運動療法実習室2 | | | |
| 担当者 | 師岡・清水・三浦・森田・甘利 | | | |
| テーマ | 感覚検査① | | | |
| 授業内容 | 1. 感覚・知覚検査の概要を説明できる。 2. 体性感覚検査の意味について説明できる。 3. 体性感覚検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月21日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 師岡・清水・三浦・森田・甘利 | | |
| | テーマ | 感覚検査① | | |
| | 授業内容 | 1. 感覚・知覚検査の概要を説明できる。 2. 体性感覚検査の意味について説明できる。 3. 体性感覚検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月28日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 清水・師岡・森田・甘利 | | |
| | テーマ | 感覚検査② | | |
| | 授業内容 | 1. 感覚・知覚検査の概要を説明できる。 2. 体性感覚検査の意味について説明できる。 3. 体性感覚検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年04月28日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 清水・師岡・森田・甘利 | | |
| | テーマ | 感覚検査② | | |
| | 授業内容 | 1. 感覚・知覚検査の概要を説明できる。 2. 体性感覚検査の意味について説明できる。 3. 体性感覚検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月12日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(下肢) | | |
| | 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月12日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(下肢) | | |
| | 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月12日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(下肢) | | |
| | 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月19日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | | |
| テーマ | 筋力検査（下肢） | | | |
| 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月19日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（下肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月19日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（下肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 下肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 下肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月26日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（上肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 上肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月26日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（上肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 上肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年05月26日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（上肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 上肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月02日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（上肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 上肢の筋力測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月02日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査（上肢） | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。
 2. 上肢の筋力測定を実施できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月02日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(上肢) | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の筋力測定の方法について説明できる。 2. 上肢の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月09日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(頸部・体幹) | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の筋力測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月09日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(頸部・体幹) | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の筋力測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月09日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(頸部・体幹) | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の筋力測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の筋力測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月16日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(筋力計) | | |
| | 授業内容 | 1. 筋力測定器具および器具を用いた測定の方法を説明できる。 2. 筋力測定器具による測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月16日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(筋力計) | | |
| | 授業内容 | 1. 筋力測定器具および器具を用いた測定の方法を説明できる。 2. 筋力測定器具による測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月16日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 大久保・森田・三浦・清水・甘利 | | |
| | テーマ | 筋力検査(筋力計) | | |
| | 授業内容 | 1. 筋力測定器具および器具を用いた測定の方法を説明できる。 2. 筋力測定器具による測定を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月23日(月) | 時限 | 3限 |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| 講義室 | 運動療法実習室2 | | | |
| 担当者 | 森田・新井・三浦・甘利・山崎・久喜 | | | |
| テーマ | 関節可動域測定（下肢） | | | |
| 授業内容 | 1. 下肢の関節可動域測定の方法について説明できる。 2. 下肢の関節可動域測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | | |
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月23日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 森田・新井・三浦・甘利・山崎・久喜 | | |
| | テーマ | 関節可動域測定（頸部・体幹） | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の関節可動域測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の関節可動域測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月30日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 森田・新井・三浦・甘利・西元・神林 | | |
| | テーマ | 関節可動域測定（頸部・体幹） | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の関節可動域測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の関節可動域測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 7年06月30日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 森田・新井・三浦・甘利・西元・神林 | | |
| | テーマ | 関節可動域測定（頸部・体幹） | | |
| | 授業内容 | 1. 頸部・体幹の関節可動域測定の方法について説明できる。 2. 頸部・体幹の関節可動域測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月07日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 森田・新井・三浦・甘利・西元・神林 | | |
| | テーマ | 関節可動域測定（上肢） | | |
| | 授業内容 | 1. 上肢の関節可動域測定の方法について説明できる。 2. 上肢の関節可動域測定を実施できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 7年07月07日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 西元・森田・新井・三浦・甘利 | | |
| | テーマ | 痛み、関節拘縮、筋力低下、筋疲労の病態生理と評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 痛みと関節拘縮の病態生理やその原因について説明できる。 2. 痛みと関節拘縮の評価ができる。 3. 筋力低下と筋疲労の病態生理やその原因について説明できる。 4. 筋力低下と筋疲労の評価ができる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 評価方法 | 1. 定期試験は、筆記試験と実技試験を行う。実技試験は前期授業の終了後、7月中に実施する。 筆記試験は、前期の定期試験期間中に行う。 2. 可否の判定は、筆記試験、実技試験、出席状況、授業態度から総合点を算出し、評価する。 3. 欠席・遅刻・早退については状況に応じて総合点より減点する。 4. 不合格者に対しては再試験を行う。再試験は原則として1回のみとする。 | | | |
| 教科書 | 1. 新・徒手筋力検査法 原著第10版、Dale Avers, Marybeth Brown 著、津山直一、中村耕三 訳、協同医書出版社 2. ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂 3. 標準理学療法学専門分野 理学療法評価学 第4版、医学書院 | | | |
| 参考書 | なし | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【森田 泰裕（科目責任者）】 | | | |

| | |
|-------------|--|
| | <p>毎週月曜日13時30分～17時30分。 上記の時間帯に訪問が難しい場合には事前にアポイントメントをとること。 Email: moritay@saitama-med.ac.jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業前日には教科書の該当部分を予習し、教科書で実習内容の意味を理解しておくこと。 ・ 服装は、原則としてユニフォームのこと。別途指示ある場合は、それに従うこと。 (予習時間30分、復習時間30分) |

| | | | |
|--------|---------------|------|-------|
| 講義名 | 理学療法評価学Ⅱ | | |
| (副題) | 専門分野（理学療法評価学） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 60.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/60時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 新井 智之 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|--|
| 担当教員 | 新井 智之・高倉 保幸・赤坂 清和・國澤 洋介・澤田 豊・小関 要作・三浦 佳代・森田 泰裕・服部 寛・清水 夏生・飛田 和基・甘利 貴志 |
| 科目の目標 | 本科目では、運動器疾患、中枢神経系疾患、呼吸・循環器系疾患、高齢者における特異的な評価項目について学習し、かつ具体的な評価実施方法を習得する。複数教員が担当する少人数グループワークにより、各領域における評価の目的、実施手順、および得られた結果の解釈について具体的に学習することを目標とする。 |
| 学習の具体的な目標 | 講義、実技演習、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを通して、以下の学習目標を修得する。 1) 中枢神経系疾患に関連する代表的な機能評価法を挙げ、実施できる。 2) 運動器疾患に関連する代表的な機能評価法を挙げ、実施できる。 3) 呼吸・循環器疾患に関連する代表的な機能評価法を挙げ、実施できる。 4) 高齢者の身体的・心理的・社会的側面に関する代表的な評価法を挙げ、実施できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月30日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 新井・森田・三浦・飛田・甘利 | | |
| | テーマ | 代謝系疾患および栄養に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 糖尿病、腎不全、脂質異常などの理学療法評価の意味と評価項目が説明できる。 2. 栄養を評価することの意味と栄養評価の項目が説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月30日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 新井・森田・三浦・飛田・甘利 | | |
| | テーマ | 代謝系疾患および栄養に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 糖尿病、腎不全、脂質異常などの理学療法評価の意味と評価項目が説明できる。 2. 栄養を評価することの意味と栄養評価の項目が説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月07日(火) | 時限 | 3限 |

| | | | | |
|------|--|---|----|----|
| 講義室 | 202 | | | |
| 担当者 | 新井・森田・三浦・飛田・甘利 | | | |
| テーマ | 高齢者の虚弱と老年症候群の評価 | | | |
| 授業内容 | 1. 高齢者の虚弱と老年症候群について説明できる 2. ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアの概念と評価方法を説明できる。 3. 転倒・骨折予防、骨粗鬆症の概念と評価方法を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月07日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 新井・森田・三浦・飛田・甘利 | | |
| | テーマ | 高齢者の虚弱と老年症候群の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 高齢者の虚弱と老年症候群について説明できる 2. ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニアの概念と評価方法を説明できる。 3. 転倒・骨折予防、骨粗鬆症の概念と評価方法を説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月14日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 森田・三浦・飛田・甘利・新井 | | |
| | テーマ | 高齢者の身体的側面に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 高齢者の身体機能の加齢変化と老年症候群について説明できる。 2. 高齢者に対するパフォーマンステストが実施できる。 3. バランス評価の枠組みと具体的な実施方法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月14日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 202 | | |
| | 担当者 | 森田・三浦・飛田・甘利・新井 | | |
| | テーマ | 高齢者の身体的側面に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 高齢者の身体機能の加齢変化と老年症候群について説明できる。 2. 高齢者に対するパフォーマンステストが実施できる。 3. バランス評価の枠組みと具体的な実施方法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月21日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 三浦・森田・飛田・甘利・新井 | | |
| | テーマ | 高齢者の精神心理および社会的側面に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 高齢者の認知機能の加齢変化とその評価について説明できる。 2. 高齢者の精神心理機能の加齢変化とその評価について説明できる。 3. 高齢者の社会的機能の加齢変化とその評価方法について説明できる。 4. 高齢者の活動性、健康行動の評価について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月21日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 三浦・森田・飛田・甘利・新井 | | |
| | テーマ | 高齢者の精神心理および社会的側面に関する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 高齢者の認知機能の加齢変化とその評価について説明できる。 2. 高齢者の精神心理機能の加齢変化とその評価について説明できる。 3. 高齢者の社会的機能の加齢変化とその評価方法について説明できる。 4. 高齢者の活動性、健康行動の評価について概説できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月28日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 飛田・新井・甘利・森田・三浦 | | |
| | テーマ | 循環器疾患に対する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 循環器疾患に対する理学療法評価（全身状態の観察、バイタルサインの測定、心電図測定）を実施できる。
2. 循環器疾患の運動耐容能，身体機能，ADL，QOLの評価の意味と評価項目が説明できる。
（予習時間30分、復習時間30分）

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月28日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 飛田・新井・甘利・森田・三浦 | | |
| | テーマ | 循環器疾患に対する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 循環器疾患に対する理学療法評価（全身状態の観察、バイタルサインの測定、心電図測定）を実施できる。 2. 循環器疾患の運動耐容能，身体機能，ADL，QOLの評価の意味と評価項目が説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月04日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 甘利・飛田・新井・森田・三浦 | | |
| | テーマ | 呼吸器疾患に対する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患に対する理学療法評価（情報収集、フィジカルアセスメント、スパイロメトリーによる呼吸機能検査）を実施できる。 2. 呼吸器疾患の運動耐容能，身体機能，ADL，QOLの評価の意味と評価項目が説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月04日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 甘利・飛田・新井・森田・三浦 | | |
| | テーマ | 呼吸器疾患に対する理学療法評価 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器疾患に対する理学療法評価（情報収集、フィジカルアセスメント、スパイロメトリーによる呼吸機能検査）を実施できる。 2. 呼吸器疾患の運動耐容能，身体機能，ADL，QOLの評価の意味と評価項目が説明できる。 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月11日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 澤田・赤坂・服部 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(1) | | |
| | 授業内容 | 以下の整形外科的テストおよび評価を実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) オーバーテスト 2) トーマステスト 3) パトリックテスト 4) ケンドールテスト 5) アプレイテスト 6) エリーテスト，他 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月11日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 澤田・赤坂・服部 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(1) | | |
| | 授業内容 | 以下の整形外科的テストおよび評価を実施できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) ラックマンテスト 2) マクマレーテスト 3) 脛骨前方・後方引出しテスト 4) 膝関節内反・外反ストレステスト，他 （予習時間30分、復習時間30分） | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月18日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 赤坂・澤田・服部 | | |
| | テーマ | 頸椎および下肢に対する徒手検査 | | |
| | 授業内容 | | | |

以下の整形外科的テストを実施できる。

- 1) PA検査
- 2) スパーリングテスト
- 3) ジャクソンテスト
- 4) シャープパーサーテスト
- 5) 椎骨動脈テスト
- 6) 自動運動による疼痛誘発検査, 他
(予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|--|----|----|
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月18日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 赤坂・澤田・服部 | | |
| | テーマ | 頰椎および下肢に対する徒手検査 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1) Kemp test 2) Beevor test 3) FABER検査、圧縮テスト 4) 大腿スラストテスト 5) 仙骨スラストテスト 6) Gaenslenテスト 7) ジレテスト 8) RDQ、JLEQ、ODI, 他 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月25日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部・赤坂・澤田 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(2) | | |
| | 授業内容 | <p>以下の整形外科的テストを実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ニアーテスト 2) ホーキンス・ケネディテスト 3) Full can テスト 4) Empty can テスト 5) painful arc 6) drop arm sign 7) Lift off test 8) Belly press test 9) ヤーガソンテスト 10) スピードテスト, 他 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月25日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部・赤坂・澤田 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(2) | | |
| | 授業内容 | <p>以下の整形外科的テストを実施できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) サルカステスト 2) 前方アプリーヘンションテスト 3) フルクラムテスト 4) ロックウッドの前方不安定テスト 5) ジャークテスト 6) オブライエンテスト 7) クランクテスト, 他 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月02日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 服部・赤坂・澤田 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(3) | | |
| | 授業内容 | | | |

以下の整形外科的テストおよび評価を実施できる。

- 1) アドソンテスト
 - 2) ライトテスト
 - 3) Eden test
 - 4) ルーステスト
 - 5) 肩JOA score
 - 6) Shoulder 36
 - 7) DASH
 - 8) SPADI
 - 9) Thomsen test
 - 10) フィンケルシュタインテスト
 - 11) ファーレンテスト
 - 12) フロマン徴候
 - 13) RAのADL評価指標, 他
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|---|----|----|
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月02日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 赤坂・澤田・服部 | | |
| | テーマ | 上肢および下肢に対する徒手検査(3) | | |
| | 授業内容 | 以下の整形外科的テストおよび評価を実施できる。 1) パテラ・パロットメントテスト 2) ストロークテスト 3) 足部の観察とアーチの評価 4) トンプソンテスト 5) 足関節全外側インピンジメントテスト 6) フィックアングル 7) 足部前方引出しテスト, 他 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月09日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 意識障害の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 意識を適切に確認できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月09日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 意識障害の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 意識を適切に確認できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月16日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害の評価・中枢性運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 脳血管障害の包括的評価、脳血管障害(テント上病変)の運動麻痺の特徴を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月16日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害の評価・中枢性運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. Brunnstrom stageの概論を説明でき、手指検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月23日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害による運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. Brunnstrom stageの上肢・下肢の検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|----|---------|---|----|----|
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月23日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害による運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. Brunnstrom stageの上肢・下肢の検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月06日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害による運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 演習を通じて、Brunnstrom stage検査を実施できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月06日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害による運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 12グレード片麻痺運動テストやSIASの評価を説明し、実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月13日(火) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳血管障害による運動麻痺の評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 脳血管障害の理学療法評価を説明し、実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月13日(火) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 池田・高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 脳神経検査 | | |
| | 授業内容 | 1. 脳神経検査を実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | |
|-------------|---|
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 定期試験(筆記試験、実技試験)、出席状況、授業態度、授業期間中に実施する小テストおよびレポート課題により、総合点を算出し、評価を行う。 2. 欠席・遅刻・早退については状況に応じて総合点より減点する。 3. 不合格者に対しては再試験を行う。再試験は原則として1回のみとする。 |
| 教科書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. エビデンスに基づく整形外科徒手検査法(エルゼビア・ジャパン) 2. 理学療法学ゴールド・マスター5 中枢神経系理学療法学(メジカルビュー) <p>* 他は各教員より必要な資料を準備・配布する。</p> |
| 参考書 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸運動療法の理論と技術 メディカルビュー 2. 循環器理学療法の理論と技術 メディカルビュー 3. 高齢者理学療法学 医歯薬出版株式会社 |
| 連絡先/オフィスアワー | <p>授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。</p> <p>【新井 智之】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日の10時00分から17時00分 ・上記時間帯に訪問することが難しい場合は、事前にアポイントメントをとること。 <p>E-Mail: arai_tm@saitama-med.ac.jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | <ul style="list-style-type: none"> ○授業前日には参考書から該当部分を予習し、授業内容の事前学習を行うこと。 ○配布資料を元に小グループでのグループワークとディスカッションならびに発表を行うため、積極的な授業態度や発言が求められる。 ○教科書の当該部分を予習し、授業日までに実習内容を理解しておくこと。 ○演習形式のため、白衣、トレーニングウェアなど、指定された服装を準備してのぞむこと。 ○演習内容を正確かつ円滑に実施できるように授業中は繰り返し練習すること。 (予習時間30分、復習時間30分) |

| | | | |
|--------|---------------|------|-------|
| 講義名 | 物理療法学演習 | | |
| (副題) | 専門分野（理学療法治療学） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 60.00 |
| 代表曜日 | 月曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/60時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 大久保 雄 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 大久保 雄・時田幸之輔・姉帯 沙織・飛田 和基 |
| 科目の目標 | 各種物理療法の物理学的基礎、生体に対する影響、効果適応などについて測定機器などを用いて体験するとともに、その効果について学習、考察する。また、様々な疾患に対する禁忌と適応についても学習する。 |
| 学習の具体的な目標 | <p>1) 物理療法で使われる物理刺激について、その物理学的性質を理解し、説明できる。</p> <p>2) 物理刺激に対する生体反応について、生理学的に理解し、説明できる。</p> <p>3) 物理療法の施行方法について、物理学的・生理学的・解剖学的に理解し、禁忌や適応を説明できる。</p> <p>4) 物理療法施行中・施行後の生体反応について正しく評価できる。</p> <p>5) 物理療法施行前後の変化について正しく報告できる。</p> <p>* 授業形態：前半(1-9回)は講義形式，後半(10-30回)は実習およびプレゼンテーションの演習形式</p> <p><ホットパック> ホットパックを施行前・中・後の各種温度変化を測定し考察する。</p> <p><牽引療法> 腰椎・頸椎牽引角度の違いによる効果の差について、測定し考察する。</p> <p><超音波> 超音波施行前後の関節可動域の変化について、測定し考察する。</p> <p><寒冷療法> 寒冷療法施行前・中・後の感覚の変化について測定し考察する。</p> <p><全身浴> 全身浴を施行し、血圧変化を測定し考察する。</p> <p><電気刺激療法> 電気刺激療法前・中・後の感覚の変化について測定し考察する。</p> <p><水中トレッドミル> 水深の違いによる自覚的運動強度、心拍数の変化の違いについて測定し考察する。</p> <p><レーザー> レーザーを照射し、血圧の変化を測定し考察する。</p> <p><交代浴> 交代浴施行前後の神経伝導速度を測定し考察する。</p> <p><極超短波・超短波> 極超短波・超短波照射後の関節可動域の変化を測定し考察する。</p> |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|----------------|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月29日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |

| | | | | |
|------|---|--|----|----|
| テーマ | 温熱療法総論・ホットパック | | | |
| 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 熱の物理学的性質について説明できる。 2. 温熱の生理学的作用について説明できる。 3. ホットパックの特徴について説明できる。 4. ホットパックの適応と禁忌について説明できる。 5. ホットパックの利点と欠点について説明できる。 6. ホットパックの使用方法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月29日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 電気療法総論 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 電気療法の分類について説明できる。 2. 治療電流の基本的事項について説明できる。 3. 電気刺激法について説明できる。 4. 電気刺激の生理的作用と適応について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月29日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 光線療法総論・赤外線療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 光線の物理的性質について説明できる。 2. 光線の生理学的作用について説明できる。 3. 赤外線について説明できる。 4. 赤外線発生装置について説明できる。 5. 赤外線照射による生理学的作用について説明できる。 6. 適応、禁忌、注意事項について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月06日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | パラフィン・極超短波 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パラフィンの物理的性質について説明できる。 2. パラフィン療法の適応、禁忌、利点、欠点について説明できる。 3. パラフィン療法の各種使用方法について説明できる。 4. 加温装置の管理について説明できる。 5. 極超短波の定義について説明できる。 6. 極超短波の発熱機序について説明できる。 7. 極超短波の臨床的適用について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月06日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 水治療法・牽引療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 水の物理的特性と生理学的作用について説明できる。 2. 水治療法の実際について説明できる。 3. 牽引療法の目的と効果について説明できる。 4. 頸椎牽引の目的について説明できる。 5. 頸椎の牽引方法について説明できる。 6. 頸椎牽引の牽引力、牽引方向、牽引時間、牽引姿勢について説明できる。 7. 頸椎牽引の適応について説明できる。 8. 腰椎牽引の目的について説明できる。 9. 腰椎の牽引方法について説明できる。 10. 腰椎牽引の牽引力、牽引方向、牽引時間、牽引姿勢について説明できる。 11. 腰椎牽引の適応について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月06日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 時田・姉帯 | | |
| | テーマ | 紫外線・レーザー | | |
| | 授業内容 | | | |

1. 紫外線について説明できる。
 2. 紫外線の生理学的作用について説明できる。
 3. 紫外線感受性テストについて説明できる。
 4. 治療手順、注意事項、禁忌について説明できる。
 5. レーザー光の特徴について説明できる。
 6. レーザー光の生理学的作用について説明できる。
 7. レーザー発生装置とその種類について説明できる。
 8. 照射手順と注意点について説明できる。
- (予習時間30分、復習時間30分)

| | | | | |
|----|---------|---|----|----|
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月20日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 電気療法各論 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 治療的電気刺激・機能的電気刺激・経皮的電気刺激の原理について説明できる。 2. 治療的電気刺激・機能的電気刺激・経皮的電気刺激の適応について説明できる。 3. 治療的電気刺激・機能的電気刺激・経皮的電気刺激の適応と禁忌について説明できる。 4. 最適な刺激パラメーターについて説明できる。 5. 治療的電気刺激・機能的電気刺激・経皮的電気刺激の臨床応用について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月20日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 寒冷療法 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 寒冷療法の分類について説明できる。 2. 寒冷療法の生理学的作用について説明できる。 3. 寒冷療法の適応、禁忌、注意点について説明できる。 4. 治療方法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月20日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保 | | |
| | テーマ | 超音波 | | |
| | 授業内容 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 超音波の物理的性質について説明できる。 2. 超音波の生体への作用について説明できる。 3. 超音波の使用方法について説明できる。 4. 適応と禁忌について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月10日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】物理療法学実習 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて実習する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月10日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】〃 | | |
| | 授業内容 | 〃 | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月17日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】物理療法学実習・発表 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて発表する (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月17日(月) | 時限 | 4限 |

| | | | | |
|------|----------------|---|----|----|
| 講義室 | 301 | | | |
| 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | | |
| テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | | |
| 授業内容 | " | | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月17日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月01日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 物理療法学実習 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて実習する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月01日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月08日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 物理療法学実習・発表 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて発表する (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月08日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月08日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月15日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 物理療法学実習 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて実習する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月15日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 物理療法実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】 " | | |

| 授業内容 | | " | | |
|------|---------|---|----|----|
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月22日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】物理療法学実習・発表 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて発表する (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月22日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】" | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月22日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 301 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】" | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月05日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】物理療法学実習 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて実習する。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月05日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】" | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月05日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】" | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月19日(月) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】物理療法学実習・発表 | | |
| | 授業内容 | (1)ホットパック(2)牽引療法(3)電気刺激療法(4)水中歩行(5)寒冷療法(6)超音波(7)全身浴(8)レーザー・赤外線(9)交代浴(10)極超短波・超短波、のうち指定テーマについて発表する (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月19日(月) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |
| | 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 | | |
| | テーマ | 【アクティブラーニング】" | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月19日(月) | 時限 | 5限 |
| | 講義室 | 物理療法学実習室・水治療実習室・102 | | |

| | |
|-------------|---|
| 担当者 | 大久保・時田・姉帯・飛田 |
| テーマ | 【アクティブラーニング】〃 |
| 授業内容 | 〃 |
| 評価方法 | <ol style="list-style-type: none"> 10月27日(月)3限(予定)に実施する「筆記試験(記述式+多肢選択式)」「レポート」「課題への取り組み(発表)」によって評価する。また、レポート提出に対しコメントを返す。 不合格者には再試験を実施する予定である。 |
| 教科書 | 1. 標準理学療法学 専門分野 物理療法学、奈良勲監、医学書院 |
| 参考書 | 1. 物理療法実践ガイド Karen W. Hayes (著)、奈良勲(翻訳)、篠原英記(翻訳)、医学書院 |
| 連絡先/オフィスアワー | <p>授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【大久保雄】 月曜日2限目 上記時間帯に訪問することが難しい場合は、メールにてアポイントメントをとること。 E-mail: yokubo@saitama-med.ac.jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | <p>授業前日には実習書の該当部分を予習し、教科書で実習内容の意味を理解しておくこと。また、実習後にはレポート作成のための文献検索や教科書での確認を怠らないこと。レポートは実習終了後、指定された期日に提出すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 十分な予習及び準備を行って授業にのぞむこと。 グループ毎に演習前の準備や終了時の後片付け、実習室の整理等責任を持って行うこと。 実習室で自己学習する場合は、所定の手続きを取ることを。 |

| | | | |
|--------|---------------|------|-------|
| 講義名 | 日常生活活動学演習 | | |
| (副題) | 専門分野（理学療法治療学） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 60.00 |
| 代表曜日 | 木曜日 | 代表時限 | 3限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/60時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 金井 欣秀 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 金井 欣秀・高倉 保幸・國澤 洋介・小関 要作・清水 夏生・師岡 祐輔・松尾 公裕・松本絵美子 |
| 科目の目標 | 理学療法を実施する上で、日常生活活動（ADL : Activities of Daily Living）の自立を目指すことは、大きな目標の一つとなる。本科目では、ADLの評価項目や評価の目的について学び、各活動の介助や指導方法を修得する。また、各活動を行う上で必要な福祉用具の種類や適応、住宅改修の基礎について学び、ADLを実施するうえで対象者に適切な環境整備について助言することができる。 |
| 学習の具体的な目標 | 講義や演習でのグループワークを通して以下の学習目標を修得する。 1) ADLの概念が説明できる。 2) ADL尺度の種類、項目、実施方法について説明できる。 3) ADL尺度を用いて評価を実施できる。 4) ADLを運動学的にとらえ、観察することができる。 5) ADLに必要な福祉用具の種類や使用方法について説明できる。 6) 各疾患や特定の状態におけるADLの特徴を説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|---|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月01日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | 科目オリエンテーション ADL概論 | | |
| | 授業内容 | 1. ADLの概念と範囲について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月01日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | APDL（生活関連活動）、IADL（手段的日常生活活動）、EADL（拡大日常生活活動） | | |
| | 授業内容 | 1. 一連のADLについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月02日(木) | 時限 | 3限 |

| | | | | |
|------|---------------------------------------|---|----|----|
| 講義室 | 201 | | | |
| 担当者 | 國澤・高倉・金井・小関・師岡・清水 | | | |
| テーマ | ICF | | | |
| 授業内容 | 1. ICFについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月02日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 國澤・高倉・金井・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月08日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | QOL | | |
| | 授業内容 | 1. QOLとその評価法について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月08日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | ADLの評価 | | |
| | 授業内容 | 1. 主要なADL評価方法を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月09日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 小関・高倉・國澤・金井・師岡・清水 | | |
| | テーマ | ADLの運動学的観察 | | |
| | 授業内容 | 1. ADLを運動学的に観察できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月09日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 清水・高倉・國澤・金井・小関・師岡 | | |
| | テーマ | BIとFIM | | |
| | 授業内容 | 1. BI・FIMの目的と特徴を説明できる。 2. BI・FIMの評価方法を説明できる。 3. BI・FIMを用いてADLを評価できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月15日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 清水・高倉・國澤・金井・小関・師岡 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月15日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 清水・高倉・國澤・金井・小関・師岡 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月16日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 清水・高倉・國澤・金井・小関・師岡 | | |

| | | | | |
|------|---------|--|----|----|
| テーマ | " | | | |
| 授業内容 | " | | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月16日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 清水・高倉・國澤・金井・小関・師岡 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月22日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 小関・國澤・高倉・金井・師岡・清水 | | |
| | テーマ | 各論：切断 | | |
| | 授業内容 | 1. 切断者のADL評価ができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月22日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 小関・國澤・高倉・金井・師岡・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月23日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 清水・小関・師岡・高倉・國澤・金井 | | |
| | テーマ | 起居動作をはじめとしたADLで用いる各種動作1 | | |
| | 授業内容 | 1. 床からの立ち上がり方法について説明できる。 2. 床からの立ち上がりの介助を健常者相手に実施できる。 3. 浴槽移乗について説明できる。 4. おむつ交換の方法について説明できる。 5. おむつ交換を健常者相手に実施できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 16 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月23日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 清水・小関・師岡・高倉・國澤・金井 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 17 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月29日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 小関・金井・清水・高倉・國澤・師岡 | | |
| | テーマ | 各論：歩行補助具 | | |
| | 授業内容 | 1. 歩行補助具の種類と目的、適応について説明できる。 2. 歩行補助具を使用した歩行指導について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 18 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月29日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 小関・金井・清水・高倉・國澤・師岡 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 19 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月30日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 師岡・金井・高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | 各論：車椅子 | | |

| | | | | |
|------|---|---|----|----|
| 授業内容 | 1. 車いすの種類と目的、適応について説明できる。 2. 車いすの採寸について説明できる。 3. 車いすの整備ができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 20 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月30日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201・ADL実習室 | | |
| | 担当者 | 師岡・金井・高倉・國澤・小関・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 21 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月05日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 金井・小関・師岡・松尾・高倉・國澤・清水 | | |
| | テーマ | 起居動作をはじめとしたADLで用いる各種動作2 | | |
| | 授業内容 | 1. 起居動作の方法について説明できる。 2. 起居動作の介助を健常者相手に実施できる。 3. 車椅子とベッド間のトランスファーについて説明できる。 4. 車椅子とベッド間のトランスファーを健常者相手に実施できる。 5. リフトを用いた車椅子とベッド間のトランスファーについて説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 22 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月05日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 金井・小関・師岡・松尾・高倉・國澤・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 23 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月06日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 師岡・國澤・高倉・金井・小関・清水 | | |
| | テーマ | 各論：脊髄損傷 | | |
| | 授業内容 | 1. 四肢・対麻痺者のADL評価ができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 24 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月06日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 運動療法実習室1 | | |
| | 担当者 | 師岡・國澤・高倉・金井・小関・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 25 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月12日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 清水・金井・師岡・高倉・國澤・小関 | | |
| | テーマ | 各論：片麻痺 | | |
| | 授業内容 | 1. 片麻痺者のADLの評価ができる。 2. 片麻痺者の移乗・移動について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 26 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月12日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | ADL実習室・運動療法実習室2 | | |
| | 担当者 | 清水・金井・師岡・高倉・國澤・小関 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 27 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月13日(木) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・松本・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | 訪問 | | |

| | | | | |
|-------------|--|--|----|----|
| 授業内容 | 1. 在宅でのADLに関連する福祉用具の役割について説明できる。 2. 在宅でのADLに関連する理学療法士の役割について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 28 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月13日(木) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・松本・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | " | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 29 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月19日(水) | 時限 | 3限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 小関・高倉・國澤・金井・師岡・清水 | | |
| | テーマ | 各論：関節リウマチ | | |
| | 授業内容 | 1. 関節リウマチ者のADL評価ができる。 2. 自助具の種類や目的を説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 30 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月19日(水) | 時限 | 4限 |
| | 講義室 | 201 | | |
| | 担当者 | 金井・高倉・國澤・小関・師岡・清水 | | |
| | テーマ | 各論：小児 ADLのまとめ | | |
| | 授業内容 | 1. 小児を対象としたADL評価尺度を概説できる。 2. 小児のADLの発達について説明できる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 1. 出席状況、授業態度、小テスト、課題、中間確認テスト、定期試験などにより総合的に評価する。 2. 不合格者には、追・再試期間中に再試験を行う。 | | | |
| 教科書 | 1. 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学、奈良勲監修、医学書院 2. 脳卒中の機能評価 SIASとFIM [基礎編]、千野直一他編著、金原出版 | | | |
| 参考書 | なし | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【金井欣秀】 月曜日14:50~16:20とする。 上記時間での訪問が難しい場合は、メールにて連絡アポイントメントを取ること。 E-mail: kanai_at_saitama-med.ac.jp ※atは@に変換すること。 | | | |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前日には教科書の該当部分を予習し、教科書で授業内容の意味を理解しておくこと。 また、課題は指定された期限内に実施または指定された場所に提出すること。必要に応じて動きやすい服装で出席すること。 中間確認テストの日程については別途案内する。 中間確認テストや定期試験に対する素点は決められた方法でフィードバックするので、指定された手続きを行うこと。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 | | | |

| | | | |
|--------|---------------|------|-------|
| 講義名 | 生活環境学 | | |
| (副題) | 専門分野（地域理学療法学） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 | 時間 | 30.00 |
| 代表曜日 | 火曜日 | 代表時限 | 1限 |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 2単位/30時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年後期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 三浦 佳代 | 理学療法学科教員 |

| | |
|-----------|---|
| 担当教員 | 三浦 佳代・森田 泰裕・新井 智之・丸谷 康平・長島 佳歩・長谷部有莉 |
| 科目の目標 | 環境に関する諸側面を学び、ヒトの生活と環境との関係を理解、修得する。生活環境を整備することにより、安全・安心な生活や、障害を抱える人でも自立した生活が可能となることを理解し、その評価や解決策について提案できることを目標とする。 生活環境整備における医療や介護、ならびに他職種との連携について学習し、生活環境の整備の実態について理解する。さらに各種障害に応じた環境整備、法制度を学び、臨床実習や将来の臨床実践に向けた知識の応用、およびクライアントへの提案ができることを目標とする。また、そのために必要となるグループでの意見交換能力やプレゼンテーション能力を身に付けることも目標となる。 |
| 学習の具体的な目標 | 講義とグループワークを通して以下の学習目標を修得する。 1) 環境には、自然環境、社会環境、文化環境の側面があることを理解し説明できる。 2) 世界の福祉機器の進歩発展を理解し、医療・福祉への活用について説明ができる。 3) 生活環境と生活機能の関係について説明ができる。 4) 自宅および施設における転倒リスクについて説明できる。 5) 自宅および施設における転倒予防策について説明できる。 6) 生活環境の評価を経験し、その内容を説明できる。 7) 生活機能向上を目的とした住環境整備のプラン立案を経験し、その内容を説明できる。 8) 住環境整備に関わる社会資源について説明ができ、活用方法を経験する。 9) 住環境整備の概略を説明できる。 |

| 授業計画表 | | | | |
|-------|---------|--|----|----|
| 1 | 年月日(曜日) | 令和 7年09月30日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 概論 | | |
| | 授業内容 | 1 オリエンテーション 2 ヒトと環境についての関係を説明できる 3 バリアフリーおよびユニバーサルデザインについて説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 2 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月07日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 丸谷 | | |

| | | | | |
|------|--|---|----|----|
| テーマ | ICFからみた生活環境 | | | |
| 授業内容 | 1 ICFにおける生活機能と背景因子の関係を説明できる 2 環境因子に対するアプローチの重要性について説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | | |
| 3 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月14日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 丸谷 | | |
| | テーマ | 生活環境整備に関する法的制度 | | |
| | 授業内容 | 1 住環境整備に関する制度について説明できる 2 障害者総合支援法のサービスについて説明できる 3 介護保険におけるサービスについて説明できる 4 各種制度のサービスの利用方法について説明できる (予習時間60分、復習時間30分) | | |
| 4 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月21日(火) | 時限 | 2限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 住環境と福祉機器①概説 | | |
| | 授業内容 | 1 福祉住環境における施設基準について説明できる 2 自宅や施設で使用する福祉用具の特徴について説明できる 3 福祉用具選択時のポイントについて説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 5 | 年月日(曜日) | 令和 7年10月28日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 住環境と福祉機器②グループワーク | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 6 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月04日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 住環境と福祉機器③発表 | | |
| | 授業内容 | " | | |
| 7 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月11日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 自宅・施設内環境と転倒 | | |
| | 授業内容 | 1 高齢者における転倒の特徴を説明できる 2 自宅および施設内環境における転倒リスク箇所について説明できる 3 自宅および施設内における転倒予防策について説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 8 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月18日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 生活環境整備の進め方① | | |
| | 授業内容 | 1 家屋評価について概説する 2 家屋評価時のポイントについて説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 9 | 年月日(曜日) | 令和 7年11月25日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 森田 | | |
| | テーマ | 生活環境整備の進め方② | | |
| | 授業内容 | 1 実例を通して環境整備の可能性について概説する 2 実例に対して環境整備について自分なりの解決策を述べるができる。 (予習時間30分、復習時間30分) | | |

| | | | | |
|-------------|---|---|----|----|
| 10 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月02日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 新井 | | |
| | テーマ | 障害と生活環境(高齢者) | | |
| | 授業内容 | 1 高齢者における身体・心理的特徴について説明できる 2 (虚弱)高齢者における環境的諸問題について説明できる 3 (虚弱)高齢者に対する環境アプローチについて説明できる (予習時間60分、復習時間60分) | | |
| 11 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月09日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 長谷部・三浦 | | |
| | テーマ | 障害と生活環境(就労支援) | | |
| | 授業内容 | 1 就労支援について説明できる 2 障害者が就労を行う上での問題点について説明できる 3 障害者の就労を支援する方法について説明できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 12 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月16日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 長島・三浦 | | |
| | テーマ | 障害と生活環境(レジャー活動) | | |
| | 授業内容 | 1 障害者が旅行をはじめレジャー活動を行う上での問題点を説明できる 2 障害者の生活の質を高めるプランを提供できる (予習時間30分、復習時間30分) | | |
| 13 | 年月日(曜日) | 令和 7年12月23日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 屋外環境整備(まちづくり) | | |
| | 授業内容 | 1 屋外の環境における基準値を説明できる 2 公共施設等におけるバリアフリー対策について説明できる 3 ゼロ次予防について説明できる (予習時間60分、復習時間60分) | | |
| 14 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月06日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | 障害と生活環境(疾患別) | | |
| | 授業内容 | 1 疾患特異的および機能別の環境的問題点について説明できる 2 各種疾患における環境アプローチについて説明できる (予習時間60分、復習時間60分) | | |
| 15 | 年月日(曜日) | 令和 8年01月13日(火) | 時限 | 1限 |
| | 講義室 | 203 | | |
| | 担当者 | 三浦 | | |
| | テーマ | まとめ | | |
| | 授業内容 | 1 これまでの授業の復習を行う 2 ヒトと環境の関連について説明できる 3 環境整備における施設基準について説明できる 4 ヒトがよりよく生活するための対策について提案できる (予習時間10分、復習時間30分) | | |
| 評価方法 | 出席状況、授業態度(プレゼンテーション内容も含む)、課題やレポート、小テスト、定期試験期間中に行う期末試験により、総合的に評価する。レポート返却時にはコメント記載が直接講評にてフィードバックを行う。 | | | |
| 教科書 | 1. 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学、奈良勲監、医学書院 | | | |
| 参考書 | 1. 福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト、東京商工会議所編、東京商工会議所 2. 生活環境論 木村哲彦監、医歯薬出版 | | | |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 【三浦佳代】 | | | |

| | |
|-------------|---|
| | <p>月曜 4 限目 上記時間での訪問が難しい場合は、メールにて連絡アポイントメントをとること。 E-mail : k_miura@saitama-med.ac.jp</p> |
| 履修上の注意、履修要件 | <p>授業前日には教科書の該当ページを予習し、授業後には学習内容の見直しを行うこと。さらに余暇を利用して図書館での参考書、参考文献の確認などを行い、学習内容を深めること。 グループワークに積極的に参加すること。レポートは指定された期間内に指定された場所に提出すること。</p> |

| | | | |
|--------|------------|------|-------|
| 講義名 | 検査・測定臨床実習 | | |
| (副題) | 専門分野（臨床実習） | | |
| 開講責任部署 | 理学療法学科 | | |
| 講義開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 1 | 時間 | 45.00 |
| 代表曜日 | | 代表時限 | |
| 校地 | 川角キャンパス | | |
| 単位数 | 1単位/45時間 | | |
| 必修・選択 | 必修 | | |
| 配当年次 | 2年前期 | | |

| 担当教員 | | |
|-------|---------|----------|
| 職種 | 氏名 | 所属 |
| 理学療法士 | ◎ 國澤 洋介 | 理学療法学科教員 |

| 担当教員 | 國澤 洋介・高倉 保幸・赤坂 清和・新井 智之・大久保 雄・金井 欣秀・小関 要作・澤田 豊・時田幸之輔・森田 泰裕・師岡 祐輔・三浦 佳代・姉帯 沙織・清水 夏生・飛田 和基・服部 寛・甘利 貴志 |
|--|--|
| 科目の目標 | 検査・測定臨床実習においては、各施設での見学・模倣を通して、理学療法士の業務の流れをより深く理解するとともに、医療人として求められる適切な接遇態度を修得する。また、日本理学療法士協会が「臨床実習の手引き」で提示する水準1に該当する臨床行為の一部について、臨床実習指導者の監督・指導の下で体験する。 |
| 学習の具体的な目標 | 実習を通して以下の学習目標を修得する。 ①各施設における理学療法士の役割や業務を説明できる ②医療人を目指す学生として求められる適切な身だしなみ・接遇を実践できる ③診療補助業務を見学・体験し、対象者の苦悩や身体的・能力的特徴を理解できる ④学内での学習内容を臨床現場で活用し、思考する学習態度を身につける ⑤主体的な自己行動計画の立案・自己管理が実践できる |
| 授業計画表 | |
| 埼玉医科大学関連施設において1週間の検査・測定臨床実習を行う。 事前学習：7月25日（金） 病院実習：7月28日～8月1日（7/29を除く4日間） 事後学習：8月2日（土） | |
| 評価方法 | 1. 実習期間中の4/5以上の出席により、評価と単位認定の対象とする。 ※実習中に欠席と認めるのは、病気や急引きなどの正当な理由がある場合だけである。 2. 単位の認定にあたっては、出席状況、作成課題、事前・事後学習による評価、到達度評価の結果などをもとに理学療法学科内の判定会議にて総合的に判定する。 3. 必要に応じて学内・学外補習を行う。 |
| 教科書 | 適宜プリントを配布する。 |
| 参考書 | 1. 基礎運動学 中村隆一他著 医歯薬出版 2. 標準理学療法学 理学療法評価学 医学書院 3. 新・徒手筋力検査法、Helen J. Hislop他著、協同医書 4. ベッドサイドの神経の診かた、田崎義昭他著、南山堂 |
| 連絡先/オフィスアワー | 授業および課題等に対する質問・フィードバックなどはオフィスアワーを利用すること。 欠席連絡を含め、実習期間中の連絡は川角事務室を窓口とする。 【國澤 洋介】 月～金曜日の12時10分～13時10分 E-mail：kawakado@saitama-med.ac.jp, kunisawa@saitama-med.ac.jp |

| | |
|-------------|--|
| 履修上の注意、履修要件 | <p>実習の前には実習に必要な知識・技術について十分に準備・確認すること。実習に対しての具体的目標を設定し、目標が達成できるように努力を怠らない事。また、実習中および終了後には指定された課題を遂行し、要求水準を満たすとともに、提出等の時間を厳守すること。 (予習時間30分、復習時間30分)</p> <p><履修要件></p> <p>1) 2年次に在籍していること。 2) 1年次開講科目のうち、専門分野（理学療法学概論、理学療法評価学入門、臨床見学実習）の単位を修得していること。</p> <p>なお、臨床実習科目の履修については、各科目の履修要件を満たすとともに、これまでの学修状況なども踏まえ、臨床実習に関する判定会議にて総合的に判定します。</p> <p><注意事項></p> <p>臨床実習に伴う事前指導（ガイダンスなど）、事後学習は、全て臨床実習の一部であり、臨床現場での実習と同様に評価の対象となる。臨床現場における実習において優れた学習成果を修めても、学内における学習活動に問題があれば単位を認定しないことがある。その他、実習に必要な注意事項については、ガイダンスなどで指導する。</p> |
|-------------|--|